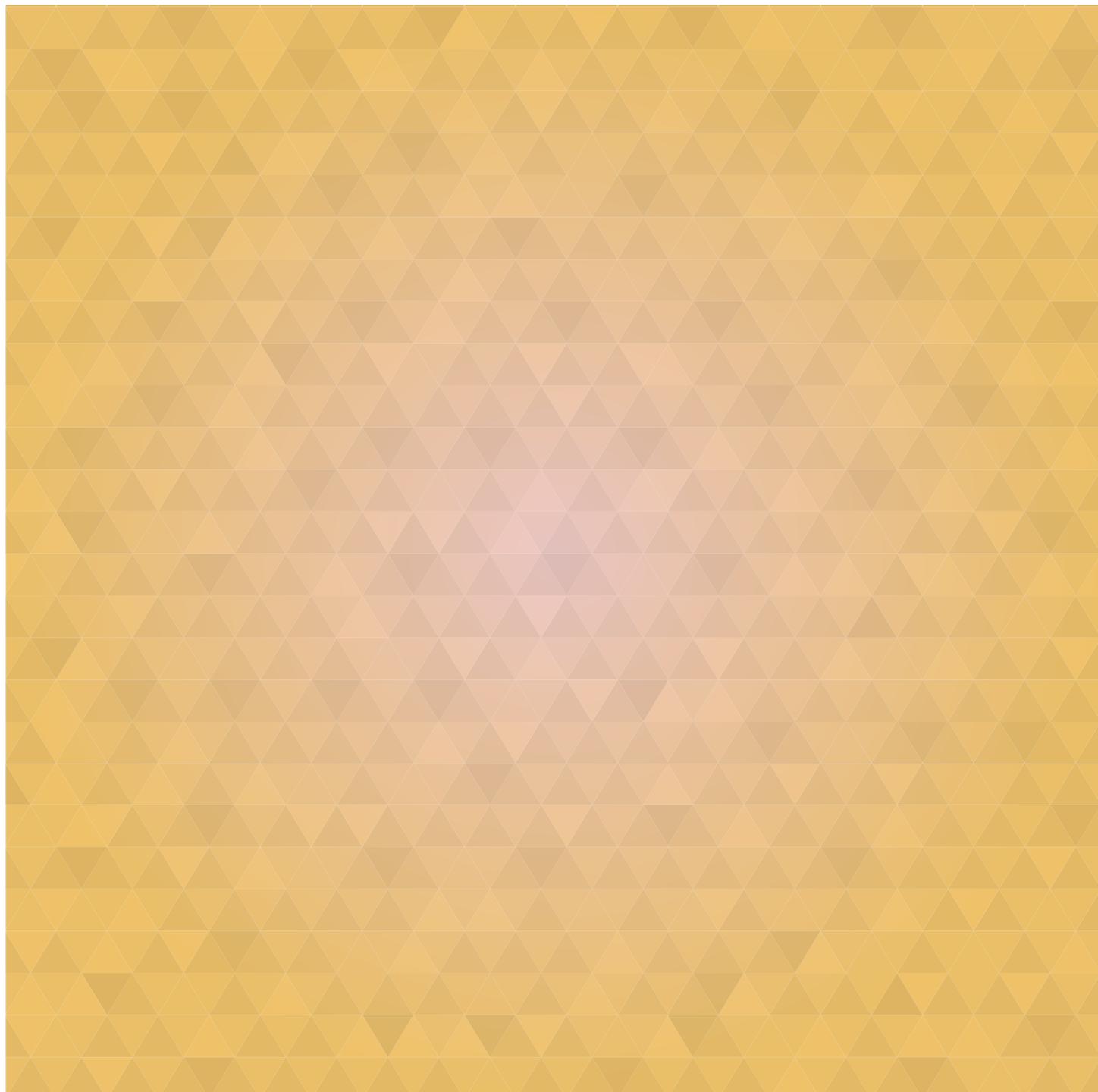


# 平成 29 年度 東北福祉大学 子ども支援プロジェクト(被災地の子ども支援)

| 活 | 動 | 報 | 告 | 書 |



東北福祉大学

子ども支援プロジェクト（被災地の子ども支援）



## ご あ い さ つ

女性ボーカルバンド「プリンセスプリンセス」様からの被災地復興支援の寄付金を基に立ち上げた「子ども支援プロジェクト」の活動を始めてから、早いものでもう4年が過ぎました。しかし、東日本大震災で大きな被害を受けた地域では7年が経過した今も学力の低下や不登校気味になっている子どもたち、表面上では元気にしていても心の傷が癒えない子どもたちがいます。この現実を踏まえて私たちは、ご寄付をいただいたプリンセスプリンセス様のお気持ちを引き継ぎ、寄付金による事業が終了しても活動を終わりとせず、継続させていきたいと強く思いました。

そこで、大学独自の資金（「東北福祉大学ボランティア活動支援寄付金」を活用しています）による子ども支援プロジェクトとして、3年間の活動を踏まえた事業を模索してみました。その経緯は、第1章の実施概要に示してありますが、地域の子どもたちにとっても、活動に参加してくれた学生にとっても、大学にとってもとても意義あるものだということを確認することができ

たのです。そして2017年4月から「被災地の子ども支援活動連絡会」という本学教員の組織での協議に基づいて活動を行ってきました。基本的には、これまでの3年間の活動の継続ですが、幸いにも各自治体の関係者や諸団体の皆様、地域の皆様から以前と変わらぬご支援をいただくことができました。皆様に支えられてこの活動が成り立っていることを改めて実感しております。このことは私たちの喜びであり、誇りでもあります。

活動のきっかけを作ってくくださったプリンセスプリンセスの皆様、七ヶ浜町教育委員会教育長様をはじめ教育委員会の皆様及び各学校の関係者様、塩釜市教育委員会教育長様および教育委員会の皆様、NPO 法人野々島自然塾の皆様、情報のあんこの皆様、仙台市荒井地区の皆様、学生たちが自主企画で訪れた地域の皆様、ほか多くの皆様からご支援・ご協力に心から感謝いたします。有難うございました。

今後ともご指導・ご支援を賜りますようお願いいたします。

東北福祉大学子ども支援プロジェクト  
被災地の子ども支援活動連絡会  
代表 星山 幸男



# もくじ

## 第1章

I. 実施概要	9
II. 被災地の子ども支援活動連絡会	11

## 第2章

I. 七ヶ浜町での学習支援活動	15
i. 目的・実施計画	15
ii. サマースクール・サマーフェスティバル	16
iii. 七ヶ浜町の取り組みを通して	22
II. 野々島プロジェクト（塩竈市での環境学習）	23
i. 目的・実施計画	23
ii. 事前準備 活動報告	24
iii. 自然体験活動「島であそべんちゃーIN 野々島」	30
iv. 野々島プロジェクト 大学祭（国見祭）での活動報告	37
v. 「島であそべんちゃーIN 野々島」参加者への満足度調査 結果報告	41
vi. 野々島での学生活動のふりかえり	48
III. 学生企画事業（学生の自主企画による活動）	51
i. ことばの貯金箱	51
ii. チーム防災士	57
iii. ふぁみりあ	62
IV. その他の事業	67
七郷中学校「防災マップづくり」支援活動	67

## 資料

- 平成 29 年度 協力団体、協力者一覧
- 平成 29 年度 参加学生一覧
- 平成 29 年度決算



## 第 1 章



# 第1章

## I. 実施概要

### 1. 実施の経緯と方針

(1)、東北福祉大学子ども支援プロジェクトの発足

このプロジェクトは、2014年4月から2017年3月までの3年間、ガールズバンド「プリンセスプリンセス」からの被災地復興支援寄付金を基金として実施してきた活動を引き継ぎ、大学独自に活動を継続する目的で発足しました。発足に当たっては、3年間の活動を振り返り、その成果と意義を確認したうえで、基本方針と新たな体制を作って2017年度から取り組むことになりました。

#### (2) 3年間の活動成果

これまでの活動は、七ヶ浜町及び塩竈市野々島における子どもたちの学習・体験活動の支援と学生の自主企画事業を中心に実施してきました。

本学教員の指導の下で、学力が低下気味になっている子どもたちへの学生による学習指導を実施した結果、子どもたちからもその保護者からも、大変助けられたという声がたくさん寄せられています。さらに3年間継続することで、各学校からも評価をいただくようになりました。活動が根付き始めて、一定の評価を得るに至りました。また1年次から子どもたちの学習指導に関われるので、大変いい勉強になる（実践力が身につく）という報告を、学生からも担当した教員からも得ています。学生の地域社会への関心の高まりもみられます。

体験学習では、不登校気味の子どもたちや表面的には元気でも心の傷の癒えていない子どもたちに対する立ち直りのきっかけ

の提供につながっています。地元と連携しながら継続したことで、高い信頼を得るようになりました。

学生企画では、自分たちで活動計画を作り、実践し、会計も含め活動を自主管理していくことを通してたくさんの方のことを学ぶ場となり、大きな成果を上げています。

#### (3) 活動を継承していく意義

3年間継続する中で地域から高い評価を得て、大きな信頼と今後の期待に今えていくことは、本学の使命の一つであり、大学の評価を高めることが活動を通してできました。例えば、推薦入試の面接で、大学のホームページを見て、入学したら子ども支援プロジェクトで活動したいと入学動機を述べた生徒が複数いたという報告がありました。また、活動に参加してくれた児童からは「大きくなったら福祉大学に入りたい」「福祉大のお兄さんやお姉さんのようになりたい」、保護者からは、学生の真摯に活動する姿や、児童から話を聞き「将来は福祉大学に入学させたい」との声を（アンケート調査などから）複数得ることができました。本学の教員と学生が連携して地域に貢献することで、地域を支援すると同時に、大学の評価にもつながっていることを受け止める必要があります。

また学生にとってこれらのボランティア活動、他では得難い経験と気づき、学びの場になっていることから、指導プログラムの一環として大変重要な意義を持つに至っています。担当した教員も、学生指導の観点から継続を望む声が強く示されています。

活動に参加した学生からは、今後も活動を続けたい、後輩にも経験させたいと、継続を望む声が示されています。さらに、活動に参加した学生の中には、卒業後もボランティアとして継続する者もあり、これまでの活動の成果の一つとして示されています。

こうした意義を踏まえて、新たに大学で経費を負担し、活動を継続していくことが確認されました。

#### (4) 子ども支援プロジェクトの基本方針と本年度の事業

上記の成果と意義を踏まえて、本プロジェクトの基本方針は、東日本大震災の被災地域の子どもたちへの多角的な支援と、そうした支援を継続的に行うための人材育成（地域支援を将来的に担える学生を育てる）の二つを柱としました。そしてこの基本方針の下、本学と提携を結んでいる七ヶ浜町での学習支援活動、塩竈市での環境学習・体験学習の機会の提供、学生の自主企画による活動を中心に今年度の事業を計画し、多くのご支援をいただきながら取り組んできました。

本年度の事業活動は、上記基本方針に沿って、七ヶ浜町でのサマースクール（8月21・22日）とサマーフェスティバル（8月23日）、塩竈市野々島での野外体験活動「島であそべんちゃー」（9月24日）、三つの学生団体による自主企画事業（南三陸町、名取市、七ヶ浜町で開催）を実施しています。私たちの予想を超える多くの学生がボランティアとして参加し、活動を担ってくれました。また各担当教員も、熱心な指導で応えています。本学が取り組む事業の一つとして定着しています。

## Ⅱ. 被災地の子ども支援活動連絡会

(学内教員により構成)

大学側もこれまでの活動の趣旨・事業内容・成果を踏まえて、被災地における子ども支援活動の意義・必要性を認めて下さり、これまでのプロジェクト委員会に代わり、「被災地の子ども支援活動連絡会」を新たに立ち上げて、これまでの活動の継続や事務処理を円滑に実施していく体制をつくるに至りました。この連絡会の主な役割は、事業計画についての意見交換・各事業実施の際の相互支援・経費の一括管理などです。なお、連絡会の構成員は以下の通りです。

名簿（敬称略、順不同）

星山 幸男（代表）

金 政信

石原 直

佐藤 伊知子

小石川 秀一

萩野 寛雄

白井 秀明

青木 一則

辻 誠一



## 第 2 章



## I. 七ヶ浜町での学習支援活動

### i. 目的・実施計画

#### 【目的】

東北福祉大学は、これまで蓄積してきた教育に関わる研究成果や福祉に関する取り組みなどを基に、サマースクールとサマーフェスティバルなどの活動を学生主体で取り組むことを通して東日本大震災の被災地である七ヶ浜町に対しての地域貢献を目的としてきた。

3年間の子ども支援プロジェクトの成果と反省を踏まえ、今年度は、大学主体の事業として取り組んだ。

サマースクールとサマーフェスティバルなどの活動は、単に子どもたちの学習支援や学習意欲の向上というだけでなく、学生自身が主体的に企画実践することを通して、本学の建学理念である『行学一如』を体現するものであり、必ずや子どもたち、学生にとってこれからの学びに示唆を与えるものと確信している。

七ヶ浜町での出会いが、子どもたちにとっても本学の学生にとっても、これからの人生に必ずや生きてくるものと願っている。



#### 【実施計画】

期間	項目	対象	内容	
6月21日	教育学科会議	サマースクール サマーフェスティバル	・学生募集 ・参加ゼミ募集	・教職員へ告知
7月5日	担当者会議	スクール・フェス	・運営方法の確認	・担当教員
7月5, 6日 ※2回に分けて実施	第1回 ミーティング	サマーフェスティバル サマースクール	・出店ゼミの確認 ・代表者選出 ・個人情報の取り扱いの確認 ・内容の説明 ・代表者選出 ・個人情報の取り扱いの確認	・各ゼミ代表 2名 ・参加者全員
8月4日	第2回 ミーティング	サマースクール サマーフェスティバル	・担当校割り振りの発表 ・当日日程の確認 ・当日日程の確認 ・係分担 ・準備状況の確認	・参加者全員 ・各ゼミ代表 2名
8月21, 22日	サマースクール	サマースクール	・汐見、亦楽、松ヶ浜小学校にて実施	・教員のべ11名 ・学生延べ 213名
8月22日	サマー フェスティバル	サマーフェスティバル	・松ヶ浜小学校体育にて実施	・学生73名 ・教員6名

## ii.サマースクール・サマーフェスティバル

### 1 実施期日・開催場所

平成29年8月21日（月）、22日（火）午前<サマースクール> 七ヶ浜町内3つの小学校にて

平成29年8月22日（火）午後<サマーフェスティバル> 七ヶ浜町立松ヶ浜小学校

### 2 日程

21日（月）、22日（火）サマースクール	22日（火）サマーフェスティバル
8:00 東北福祉大集合（中庭）・点呼、バス乗車→出発	8:00 東北福祉大集合（中庭）、点呼、バス乗車→出発
9:30 各学校到着 準備	9:30 各学校到着*準備（ブース設営）
(9:45 児童登校：おおよそのめやす)	(10:00 サマースクール開始)
10:00 サマースクール開始	(12:00 サマースクール終了 片付け)
12:00 サマースクール終了、児童下校	12:10 昼食（弁当）、準備
12:10 片付け、バス乗車→各小学校出発	*別の小学校でサマースクールを実施した学生はバスで移動（松ヶ浜小学校へ）、移動後昼食（弁当）
*22日にサマーフェスティバルに参加する2～4年は、終了後松ヶ浜小学校にて準備を行います。（違う学校でサマースクールを行った学生は、すぐにバスで移動）	12:50 開会式（学校側と合同）司会：副委員長
13:30 東北福祉大到着	13:00 サマーフェスティバル開始
13:40 昼食（風土）食事後解散 予定	15:30 サマーフェスティバル終了、後片付け、掃除
*サマースクールの時間帯は、各小学校によって多少異なります。各学校の時間割に合わせて実施となります。	16:10 閉会式（学校側と合同）司会：副委員長
	16:30 松ヶ浜小学校出発
	18:00 東北福祉大到着 解散

### 3 活動内容

・各小学校から提出された実施計画に基づいて、学年ごとに分かれての学習指導・支援を実施した。（サマースクール）

・各ゼミなどの単位ごとにブース等を出し、松ヶ浜小や近隣の小学校等の児童・園児などの遊び場を提供した。（サマーフェスティバル）

### 4 参加人数

#### (1) サマースクール

期日	21日（月）			22日（火）			合計 (延べ)
	亦楽	汐見	松ヶ浜	亦楽	汐見	松ヶ浜	
参加児童数	172	82	80	163	74	79	650
参加学生数	41	32	34	42	29	36	214

#### (2) サマーフェスティバル

学校名等	松ヶ浜	亦楽	汐見	幼児	合計
参加児童数	156	1	3	5	165

### 5 引率担当教員

21日スクール	22日スクール	22日フェスティバル
亦楽：菅原、三浦 汐見：石原、熊谷 松ヶ浜：小石川	亦楽：菅原、渡会 汐見：石原、熊谷 松ヶ浜：今野、小石川	松ヶ浜：石原、今野、渡会、小石川、熊谷、白井

## 6 指導教員から

・サマースクール：第1日目、子どもも学生も緊張とともに始まったサマースクールでしたが、第2日目終了時にはすっかりお兄ちゃん先生・お姉ちゃん先生と教え子たちに様変わりしていました。学習や休み時間の会話等を通じて子ども理解が進み、「子どもを知るうえでやってよかった。」「子どもの変容が楽しかった。」などの感想が聞かれました。子どもと実際に触れあう活動は、学生にとって確かな子ども理解に通じるよい体験であったと思います。

サマーフェスティバル：どの出し物も子ども目線に立った工夫を凝らしたものであったと思います。子どもが喜ぶ「勘所」を子どもとともに活動する中で学生一人一人がとらえることができたようでした。遊びを通すと、子どもの本音が見える場合があります。スクールでの姿とフェスティバルでの姿の両方を見たことは、教育実践活動や教育実習の学びにつながるよい機会となったように思います。

・サマースクール：学生は1クラスに3～4名ずつ所属し、学級担任の先生方のご指導のもと、一生懸命活動していました。プリントも先生方が用意してくださっていて、子どもたちがどんどん学習を進めており、まるつけが追い付かないほどでした。小学校のご担当の先生からは、「ちょうど始業の前の期間なので子どもたちにも生活リズムの喚起になってよい」とのお話をいただきました。学生たちもこれからどういことを学ばなくてはならないかこの活動を通じて深く学ぶことができたと思います。

本学の卒業生が教諭として頑張っている様子にも触れることができ、学生にとっても具体的な目標になったと思います。初等

教育専攻の学生にとっては、このように小学生に触れる機会をさまざまに設定していくことが大切だと思いました。おまとめいただいた先生方、ありがとうございました。



・サマースクールについては、町内の児童にとって、大学生から学ぶことはとても新鮮であり、少人数指導のおかげもあって、学びについて何らかの形で身についたと考えられます。また、サマーフェスティバルでは、町内すべての小学校から参加があり、大いに楽しむ姿が見られました。学生にとっても、実際の児童に学習指導を行い、遊びの場面で一緒に活動をする経験というのは大変貴重であったと思います。学生にとっても大いなる学びに繋がったのではないのでしょうか。運営にあたっては、それぞれのリーダーが責任を持ち、手際よくリーダーシップを取ってくれたおかげで、おおむね順調に進むことができました。4人のリーダーに感謝したいと思います。

しかし、課題も見られました。まず、学生に無断欠席者が7名おりました。特に2年以上の学生の中には、名前だけ登録しても説明会には2回とも参加せず、こちらで不参加の学生に連絡を行っても反応がない者もあり、社会人に向けての準備としての認識が甘いと感じました。これらに関し、各ゼミの学生担当および教員で参加学生の

掌握をきめ細やかに行う必要があることを痛感しました。また、会議での告知から第1回ミーティングまでの日程が急であり、内容の決定を急がせてしまったことが反省点として挙げられます。さらに、予算内でフェスティバルの活動を設定するべきであるところ、予算を大幅に超えた活動内容を設定し、物品を購入する部分が見られました。他の予算内でのやりくりでどうか対応しましたが、与えられた条件内で実施することが必要であると感じました。

今年度で一応締めくくりの予定ですが、このような活動を次年度以降も何らかの形で実施できることを願いたいと思います。

## 7 学生の感想

### (1) サマースクール

・サマースクールには初めて参加しました。私の配属学年は四年生で、主に課題プリントの丸付けをしました。まだ夏休み中にもかかわらず、参加していた児童が多くて驚きました。

時間いっぱい、プリントに一生懸命取り組む様子はどの児童にも見られましたが、一人ひとりの進め方の違いが、特に私自身勉強になりました。もの凄いスピードで、どんどん進めて丸付けをお願いしに来る子、静かな環境を好んで、ゆっくりじっくり進める子、夏休み中でもあり、のんびりした気持ちから抜けられず、集中力が続かない子など、休み明けはいろいろなタイプの児童が出て来ると分かりました。2日目では、そのタイプの違いに応じて、どんどんコースとじっくりコースの2つに分けて取り組ませていたことが、児童の実態を把握した、学校の先生の工夫だと思いました。

また、不登校気味の児童に対する指導の

仕方を詳しく教えて頂いたり（出来ないことをとても気にしてしまう）、朝時間になっても教室にいない児童について早急に電話対応をしたりと、学級をもつ上での担任の先生の職務も実際に見て学ぶことが出来ました。

今回サマースクールに参加してみて、改めて子どもと関わる中での学びが、今の自分には必要だと分かりました。大学の講義やゼミ等で間接的な学びはあっても、実際の子どもと触れ合うと、また新しい体験や発見があります。今後も、積極的にボランティア等に参加し、将来に繋がる経験を増やしていきたいです。（亦楽小参加）

・今回で、2回目の参加となったサマースクールでは、全体のリーダーを務め、事前準備から、挨拶、総括までを責任を持って行いました。学生も一人ひとり意欲的に取り組んでいる姿が比較的多く見られた中で、朝の集合に遅れる学生や、欠席の連絡を怠ったりする学生もおり、連絡に支障がありましたが、2日間大きな問題も無く終えることが出来ました。児童も夏休みの追い込みを一生懸命に行っており、始めは恥ずかしがっていた児童も、徐々に心を開き、最後には笑顔を見せていました。勉強の話だけではなく、学校では何を学んでいるのかなどの質問や、どうして先生になりたいと思ったのかなどの質問をする児童もいました。挨拶、感謝を大切にしている松ヶ浜小学校では、「おはようございます」や「ありがとうございました」などの言葉が飛び交っていました。帰り際には、「お兄さん、お姉さんありがとう」などと大きな声で見送ってくれました。

一昨年、参加したサマースクールでは、国語と算数との縛りがあったが、今回は、

教科の縛りなく、読書感想文や漢字練習、ことわざ調べなどと各々がやり残した宿題を自由に行っていました。そのため、学生が児童に教えるという目的から少し離れてしまっていたような感じがしました。読書感想文を清書していた児童には、少しでもコミュニケーションをとろうと、夏休みの思い出などを聞いたり、分からない漢字や言葉を聞いたりしました。ことわざを調べていた児童には、4年生で難しいことわざを勉強していたため、褒め言葉や、逆に自分が分からなかった言葉を聞いて一緒に勉強するなどの工夫を自分なりに行いました。また、最終日の2時間目の最後には、他学年でちょっとしたお楽しみ会を児童と学生が行っていました。そのため、隣のクラスで学習していた児童から、自分たちの学年はお楽しみ会を行わないのかという質問が来たのと同時に、音楽が聴こえてきた時点で集中力が切れてしまった児童がいました。

これらを踏まえて、次年度の改善点とするならば、次の工夫があるとよいのではないかと考えます。ある程度教科を絞ること（国語や算数などの教えやすい、アドバイスしやすい教科など）。また、お楽しみ会を行うのか行わないのかをしっかりと統一すること（集中力が途切れ、きめっこしてしまう児童がいる）。学生については、欠席の際は、しっかりと連絡をすること（担当学年の配当の関係）。学生としてではなく、社会人として、人前に立つという責任を一人ひとりがしっかりと持ち、この活動に取り組んでいくべきだと考えます。

まだまだ、至らぬ点があったとは思いますが、2日間リーダーとしてきちんと責任をもって、連絡や、学年配当変更、挨拶等をしっかりと取り組むことが出来ました。

とても学びが多い、貴重な2日間でした。  
(松ヶ浜小参加)



・2年生になって初めて参加したサマースクールでは、特別支援学級で児童一人に対して学生一人のマンツーマンでの学習支援を担当しました。私の担当した児童は初め緊張した面持ちでしたが、わり算のプリントを行う中で児童に苦手なところを伝えられたので、本児がスムーズにできた箇所を用いて説明すると「難しく考えすぎているのかもしれない」と自信を持って理解につながられた様子でした。児童の様子を見て何が要因となって問題解決にたどり着かないのかを考えながらアプローチ方法を考えて試し、やってあげるのではなく何をしたらできるのかを考えながら支援することを心がけました。しかし、つい私が児童の思考より先走って手立てを導いた発言をしてしまったり、反対に、対話を通して思考過程を明確化することで、児童が自分で問題解決に必要なことは何なのか考えている手ごたえを感じたりしました。その両方を通して児童を目の前にした時に本児にとって今しかない時間を最善のものにする責任と練習などできないからこそその難しさを感じました。迷った時、何か方法があるはずだと感じた時、頭の中にあったのは、これまで講義を通して指導していただいた先生方

の言葉でした。先生方が伝えてくださった教育観にある意味やその素晴らしさを感じ、日々の講義の中で学び取ってきたものの大切さを感じました。また、サマースクールのリーダーとして校長先生にご挨拶した時に、児童にとって私たちとの出会いは「一人の大人との出会い」であることをお話いただき、校長先生ご自身も、私にとっての「一人の現場の校長先生との出会い」として向き合ってくださいました。教師が児童生徒の内に作り出すものの重さを教えていただいたと考えています。今後、今回のサマースクールで確認した私の学びを意識して使っていこうと思います。(汐見小参加)

## (2) サマーフェスティバル

・私の副委員長としての役割は本番の開会式、閉会式の司会進行でした。本番がどのような雰囲気なのかかわからないまま内容を考えることに少し不安はありましたが、渡会先生に意見を頂きながら内容を考え、スムーズな開会式・閉会式の進行が出来たのではないかと思います。サマーフェスティバル自体は、100人を優に超す子どもたちが来てくれ、私が所属している三浦ゼミのブースにも想像以上の子どもたちが来てくれました。子どもたちが一生懸命に作品を作る姿や、出来上がった作品で遊んでいる姿を見て、準備を頑張ってきてよかったと思いました。また、子どもたちが楽しむだけでなく、学生が楽しめていた様子だったのでそのことも含め、今回のサマーフェスティバルは大成功だったのではないかと思います。この経験から学んだことを生かし、これからの学生生活をより充実したものにしていきたいです。(2年)



・サマフェスの代表として活動してみたことは、ちゃんと成功することができて良かったなと思いました。第1回のミーティングで急に代表になり、戸惑いと不安しかありませんでした。ゼミとしてまとめなくてはいけないものと、サマフェスの代表として全体をまとめるという2つのことを同時にやるのはとても大変だったなと思いました。でも、どのゼミも時間をかけて一生懸命にブースをつくりあげていて良かったなと思いました。ゼミの絆も深まったのかなと思います。また、たくさん子ども達楽しそうに遊んでいる姿を見ることができ、サマフェスをやって良かったなと思いました。そして、サマフェスでは子どもと近い距離で接することができました。ルールを説明するだけでなく、大学生も子どもと一緒に遊んでいる姿もあり、大学生側も楽しみながら活動していたかなと思いました。

当日は多くの学生がサマースクールに参加していたため、それぞれの小学校からの移動やブースの準備に時間がかかってしまい、お昼を食べる時間が削られたり、時間が無い中お昼を食べたため開会式に遅刻する学生もいたりしました。昨年度のように、サマースクールとサマフェスの日を分けるか、今年度のように1日に2つのことをする場合はちゃんと区切りをつけて、準備も

落ち着いて行えるスケジュールにした方が  
良いと思いました。(3年)



### iii.七ヶ浜町の取り組みを通して

石原 直

宮城郡七ヶ浜町で、東日本大震災の復興支援事業として取り組みを始めて4年目となりました。

七ヶ浜町の震災による被害は、死者・行方不明者 77 名、住宅、建物被害 1323 戸(全壊、半壊)に上る大きな被害であり、私たちは決して忘れてはならないことです。

東北福祉大学(以下本学)は、震災直後から南三陸町をはじめとして多くの地域で震災支援ボランティアなどの活動を積極的に行ってきました。このような中、平成 26 年 4 月に七ヶ浜町教育委員会と教育に係る連携協定を結びました。

被災地である七ヶ浜町の子どもたちにどんな支援ができるだろうと考え、サマースクールとサマーフェスティバルを企画、実施して4年目となりました。

サマーフェスティバルは、子どもたちに楽しい時間を過ごしてもらいたいと考え企画したものです。1年目は、七ヶ浜国際村を会場に11月に実施しました。小学生の子どもたちにとっては、少し遠い場所になってしまったことなどもあり、多くの子どもたちに楽しんでもらうことはできませんでした。その反省を踏まえ、2年目からは、夏休み中に実施することとし、2年目は汐見小学校の体育館を会場に、3年目は亦楽小学校の体育館を会場に実施しました。そして今年度は松ヶ浜小学校の体育館を会場に実施し、160名を超える児童が来場しました。

毎年多くの子どもたちが来場してくれ、楽しい時間を過ごすことができたと感じています。また、企画をした学生も充実した時間を過ごすことができました。

サマースクールについては、1年目は、汐見小学校、亦楽小学校、松ヶ浜小学校の3校で、夏休み中の6日間または3日間実施しました。午前中に学習支援を行い、午後は実験や物作り教室などを行いました。初めての試みで学生も手探りのところもありましたが、

子どもたちや先生方からとても良い評価をいただきました。2年目は、小学校3校に七ヶ浜中学校、向洋中学校を加え、5校で3日間実施しました。サマーフェスティバルを小学校で実施することも踏まえ、午前中のみの実施となりましたが、延べ200名を超える学生が参加し、充実したものとなりました。3年目は、一人一人の子どもたちに手厚く対応できるように、小学校3校のみの実施としました。受け入れ等の行事などの関係で2日間となりましたが、延べ200名を超える学生が参加し、これまで以上に一人一人の子どもたちの学習をサポートできた取り組みとなりました。今年も2日間とし、3校合わせてのべ650名の児童が参加し、学生も延べ214名が参加しました。

本学は、学生ボランティア等の活動で、学校現場に入ることが比較的容易になってきていますが、1年生の時から子どもたちに直接学習支援できる機会は多くありません。その意味では、サマースクールは貴重な機会です。わずか数日ですが、この経験を経た学生は、確実に変わっていきます。子どもたちの支援という形をとっていますが、むしろ、この取り組みを通して得ているものは学生の方が多いかもしれません。

サマーフェスティバル、サマースクールは、体験を通して学生が成長できる場になったと感じています。

このような機会をいただいた七ヶ浜町教育委員会や教員の皆様、そして、何より子どもたちのおかげと心より感謝申し上げます。

ここで学んだことを本学の教育に活かしていくことで、皆様への感謝としていきたいと思ひます。

## Ⅱ. 野々島プロジェクト（塩竈市での環境学習）

### i. 目的・実施計画

#### 目的

自然豊かな環境の中で感じられる体験や環境づくりの基礎を学ぶ取り組みを、被災地の子どもたちや配慮が必要な子どもたちを対象に、東北福祉大学の専門知識を有する教職員と金ゼミ、山口ゼミ、高村ゼミの学生、外部の様々な協力団体（者）の支援のもと、子どもたちに自信と元気を取り戻せるような楽しい場を提供します。また、子どもたちを対象とした体験型学習を学生主体で展開することによって、その経験を卒業後の学校現場や社会生活の場面で生かすことができる力を身に着けた学生を育てる事を目指します。



#### 実施計画

##### 実施計画

期間	項目		
4月20日（木）	野々島懇親会の準備1	学生・教員	懇親会の役割・係決め・22日の野々島整備の説明
4月22日（土）	野々島整備	学生・教員・スタッフ	ラベンダー畑の整備
4月27日（木）	野々島懇親会の準備2	学生・教員	島探検の準備
4月29日（土）	野々島懇親会・島歩き	島民の方・学生・教員・スタッフ	プロジェクト活動報告と謝礼・島民との交流・昼食会・島民の方へのマッサージ提供・島歩き
5月18日（木）	懇親会の振り返り・5月27日の整備作業に向けた打ち合わせ	学生・教員	懇親会の反省・振り返り 27日の野々島整備の役割決め
6月8日（木）	ラベンダー収穫の打ち合わせ1	学生・教員	ラベンダー収穫の内容説明・役割・係決め、整備の確認
6月10日（土）	野々島整備	学生・教員・スタッフ	物品整理・除草・ウッドデッキペンキ塗り
6月22日（木）	ラベンダー収穫の打ち合わせ2	学生・教員	ラベンダー収穫の最終確認
6月24日（土）	ラベンダー収穫1	学生・教員・スタッフ	ラベンダーの収穫
6月29日（木）	ラベンダー収穫振り返り・島であそべんちゃー第1回打ち合わせ	学生・教員	ラベンダー収穫の振り返り・反省 島であそべんちゃーの内容・役割決め
7月1日（土）	ラベンダー収穫2	学生・教員・スタッフ	ラベンダー収穫
7月13日（木）	ワークを交えた勉強会	学生・教員・外部講師	自然体験活動の注意、配慮が必要な子どもとは
7月20日（木）	島であそべんちゃー第2回打ち合わせ	学生・教員・スタッフ	各係内での役割分担決め・計画立て
9月14日（木）	島であそべんちゃー第3回打ち合わせ	学生・教員	各班計画発表・作業進捗
9月16日（土）	島であそべんちゃーリハーサル	学生・教員・スタッフ	各班による任務遂行・カヌー講習会
9月21日（木）	島であそべんちゃー第4回打ち合わせ	学生・教員	リハーサル振り返り・具体的準備
9月22日（金）	最終全体打ち合わせ	学生・教員	活動当日のみの支援スタッフを含めた活動最終確認
9月23日（土）	島であそべんちゃー前日準備	学生・教員・スタッフ	各班による任務遂行・最終ミーティング
9月24日（日）	島であそべんちゃー本番	学生・教員・スタッフ	児童の受け入れ・リハーサルの課題や改善点を克服し実施
9月28日（木）	24日の振り返り、国見祭打ち合わせ	学生・教員	各班での反省振り返り・国見祭での内容・役割決め
10月12、19日	国見祭準備	学生・教員	展示物の制作・ポプリ作り・ラベンダー香水作り
10月20日（金）	国見祭前日準備	学生・教員	制作物の展示室への飾りつけ・リハーサル
10月21日・22日	国見祭当日	学生・教員	野々島活動報告・ポプリ作り体験、香水コーナー運営
10月下旬	野々島プロジェクト活動報告会の準備	学生・教員	報告書・発表パワーポイント作り
11月12日（土）	野々島冬支度	学生・教員・スタッフ	バーベキュー練習・コンテナ整備・ラベンダー畑の整備
12月14日（木）	野々島プロジェクト活動報告会	学生・教員	今年度の野々島プロジェクトの活動報告（懇親会・島であそべんちゃー・大学祭）
2月8日（木）	島であそべんちゃー参加者アンケート調査結果・報告会	学生・教員	島であそべんちゃーに参加した児童と保護者への満足度調査の結果報告

## ii. 事前準備 活動報告

### 1. はじめに

本報告は、平成 29 年 9 月 24 日に宮城県塩竈市浦戸諸島野々島で行われたイベント「島であそべんちゃー IN 野々島」の準備期間の活動をまとめたものです。(イベント詳細については後述のイベント当日報告を参照ください)

まず、「島であそべんちゃー IN 野々島」開催までの流れとして、4 月から 8 月までの期間で野々島について知識を深めたり、島民との交流、ラベンダーの剪定、蕾の摘み取り、環境整備（活動で使用する物品の整理や確認、花壇の整備）等を行い、次に 9 月中旬にリハーサルを行い、最後に本番までの準備期間にてリハーサルで浮き彫りになった課題点などを改善し、本番に備えました。

### 2. 事前学習について（4 月～9 月）

#### ラベンダー畑の選定作業（4 月 22 日）

ラベンダー畑の選定作業として、電動ノコギリを使用して、ラベンダーの古い枝を切りました（写真 1）。剪定作業を行うことで、多くの新しい芽を着けることができます。



写真 1

#### 島民の方々との交流会（4 月 29 日）

親睦を深めることを目的として、島民の方々を招いてバーベキューや、昨年の活動報告、マッサージのサービスを行いました。活動報告では活動の様様を PowerPoint を用いて作成しそれをモニターに写し、島民の方々に活動の様子をわかりやすく伝えることができました。

お昼のバーベキューでは、訪れた島民の方と様々なお話をすることで、親睦が深まりみんなが笑顔になりました。

マッサージはリハビリテーション学科の学生 10 人が行い、受付は医療経営管理学科の学生が務めるなど、本格的な対応で島の方々に接しました。

この活動を通して昨年の活動でお世話になった方々に感謝の気持ちを届けることができました。（写真 2～4）



写真 2



写真 3



写真 4

#### 環境整備「物品確認」(6月10日)

島内に設置したコンテナ内の活動で使用する物品の確認を行いました。ボックス内に適当に詰め込まれていた物をジャンルごとに分けて仕舞い、外から見ても何が入っているのかわかるように入っているものの名前と個数をテープに書き、ボックスに貼るようにしました。(写真5)



写真 5

#### 環境整備「物品整理」「花壇の整備」(6月24日)

前回確認したコンテナ内の物品を消耗品・消耗品でないものに分けて数えなおし、棚に整理整頓するとともに一覧にまとめました。配置を忘れないよう、コンテナ内の見取り図を作成しました(写真6)。

また、コンテナの前にある花壇を整備し、

ヒマワリを植えました。花壇の整備の仕方については次年度以降もわかるように写真を残し、説明書も作成しました(写真7)。



写真 6



写真 7

#### ラベンダー収穫(7月1日)

この日は、島に行った学生全員でラベンダーの蕾の収穫をしました。先生に収穫方法を指導していただき個人で目標を決め行いました。短時間ではありましたが、協力し合い多くのラベンダーの蕾を収穫することができました(写真8)。



写真 8

### 子どもたちへの接し方についての事前検討 と自然の中で活動するにあたっての講義(7 月3日)

本活動の発足から支援して頂いている情報のあるこの菊地淳先生と越路明美先生のお二人を講師に招いて、子どもたちへの接し方についての事前検討と自然の中で活動するにあたっての注意事項を学びました。

子どもたちへの接し方についての事前検討では、島であそべんちや当日にこんな様子の子どもが来たらどう対応するかといったお題を設定し、集合場所にきた子どもの表情や様子からその子がどんな性格なのか、どんな気持ちで来たのか、どう接すればよいのか、座学とワークを交えた指導を頂きました。その中で、少人数のグループで話し合いや発表も行いました。

自然の中で活動するにあたっての注意事項では、島にいる害獣や害虫(毒ヘビや蜂など)の危険生物に遭遇した場合どう対処するべきか等、子どもたちを連れて自然体験活動を行う上で注意しなければならないことを教えていただきました。また、資料として、企画と計画段階・準備段階・実施段階・活動後のチェックシートを配布して

いただきました(写真9、10)。



写真 9



写真 10

### 3. リハーサルについて(9月16日)

本番を想定したリハーサルを、マリゲート塩釜での受付から、活動スケジュールに沿って、食事とカヌー以外のリハーサルを行い、最後にリハーサルで見えてきた課題等についての反省会を行いました(写真16~23)。

受付・送迎は、マリゲート塩釜にて集合し、当日の受付の配置を決めてから野々島へと向かいました。また、4年生の先輩方には子ども役を演じていただき、改善点や課題の発見に努めていただきました。

出合いの集いは、島内のブルーセンター前で、本番当日の「出合いの集い」の流れに沿って、説明、リハーサルの活動内容について諸注意を参加学生全員で情報共有し

ました（写真 11）。

探検班は、計画に沿って 5 つのチームに分かれ、野々島の自然や名所を学んでもらう島探検を行いました。実際に行ったことで、宝箱を置く場所や活動時間がどれほどかかるかなど改善点を確認することができました（写真 12）。

設営班は、早朝の船で野々島へ向かい、本番当日の昼食会場となるラベンダー畑にテントやタープを実際に設置しました。以前の活動での反省を生かし、設置場所をあらかじめ決めていたため効率よく設営することができました。また、当日危険がないように、活動の拠点となるラベンダー畑の草刈や昼食会場周辺のごみの撤去、危険な場所に安全テープを張る場所の確認などを参加者全員に協力してもらい行いました（写真 13）。

活動終了後に、ブルーセンターに戻り、館内にて全員でリハーサルの振り返りを行いました。これにより、良かった点や改善点などが浮き彫りになりました（写真 14）。



写真 11



写真 12



写真 13



写真 14

#### 4. 本番前の最終準備(9月18～22日)

リハーサルを行って得た、良い点・改善点・課題点を基に、リハーサル終了後から本番前日までの期間に、参加学生の役割を明確にすること、それぞれの意識を向上さ

せ自ら考えて動く事を心掛けました。例えば、係ごとの全体の動きを把握するために、「当日詳細スケジュール」や「係別活動予定表」などの書類を作成しました。また、情報を共有するために、メールや SNS を使うだけでなく係やリーダー同士が直接集まり話し合う機会も多く設けました(写真 15、16)。



写真 15



写真 16

#### 当日の詳細全体活動表の作成

日付・時間ごとに参加者の当日の動き、役割ごとの動きを記載したスケジュールを作成しました。

#### 係別活動予定表の作成

学生一人ひとりに班の役割を与え、何をすれば良いかわからない状況を作らないよ

うにするための表を作成。どのような準備を行うか、当日はどのような流れで活動するか、担当は誰か、など詳細を記載しました。

#### リーダー会議の開催

授業前や空き時間を利用し、各班のリーダーや副リーダーが集まり、班活動の進捗状況、変更箇所などの情報共有を図りました。

#### 参加学生全体顔合わせ会の開催

当日のみ参加のサポート学生と本番以外に交流できる機会がないため、本番前に一度、実施主体学生とサポート学生の顔合わせ（コミュニケーション）の機会を作りました。

### 5. 前泊しての本番準備（9月23日）

島内のブルーセンターに前泊し、翌日の本番に向けての調整・準備を、各班で行いました。

受付・送迎班では、乗船前に、マリゲート塩釜にて、保護者や子どもたちのスムーズな誘導の為に出入り口や駐車場の確認と念入りに受付のリハーサルを行いました(写真 11)。

探検班では、宝探しで使用する箱を作成したり、ラベンダーを入れる袋を作ったりしました。探検のリハーサルとして宝探しの宝を設置したり、子ども達と一緒に歩くことを想定して時間を計ったりしました。また、危険な場所、注意が必要な場所やトイレの確認なども行いました。そして打ち合わせを行い、最終チェックをしました(写真 12)。

カヌー班では、翌日に使用するカヌーとライフジャケットの清掃と、子どもたちが

安全に乗り降りできるように、カヌー乗り場の清掃を行いました（写真13）。

写真 18

食事班では、野々島に着く前に、スーパーで、食材を購入しました。そして野々島に着いてからは、本番のお昼ごはんを提供する食事の準備に取り掛かりました。また、フルーツポンチ用のゼリーやサンドイッチの試作やカレーを作りました。また、前泊している人たちの夕食の準備も行いました（写真14）。



写真 19

設営班では、翌日にスムーズに設営が行えるように、設置の準備や荷物の移動などを行いました。また、子どもたちや学生の行動範囲での、危険な場所の確認や立ち入り禁止テープを張りました（写真15）。



写真 20

その後、全員が居間に集まり、最終変更箇所の確認、準備物の確認など、本番が無事に遂行できるように最終ミーティングを行い、明日の本番に備えました。



写真 17



写真 21



### iii.自然体験活動「島であそべんちゃーIN野々島」

#### 1、活動を振り返って

東北福祉大学では、子ども支援プロジェクトの一つの事業として、2011年に発生した震災（津波）で大きな被害を受けた塩竈市。その塩竈市内の小学校に通う小学4年生を対象にした自然体験活動を2014年から実施しています。活動の計画及び実施を本学の金ゼミ・山口ゼミが主体になって行い、教職員、高村ゼミ・サポート学生・学外の支援者の協力を得て、この秋も塩竈市浦戸諸島「野々島」にて実施いたしました。

今回で第4回目となる本活動は、台風などの影響で天候が心配されましたが、当日は清々しいほどの晴天に恵まれ、島探検やカヌー体験など、普段の生活では味わうことのできない体験を通して、自然とのふれあいや大学生と一緒に活動を行うことで、様々なことを経験する機会になったと思います。また、学生自身も、本活動を通して、野々島の住民や島で活動する様々な方々との間に交流が生まれました。このご縁が今後の地域の活性化や復興につながればいいと考えています。

なお、参加した学生は活動していく中で、参加児童との接し方、地域間での交流の重要性、そして活動計画の組み立て方や実践方法などの多くのことについて理論や実践を通して学ぶことができました。これから社会に出ていく上で必要な「人間力」や「社会人基礎力」の向上にも繋がりました。

**2、主催** 東北福祉大学

**3、後援** 塩竈市教育委員会

#### 4、支援・協力

野々島自然塾、島民のみなさん

塩竈市産業観光部、浦戸振興課

**5、期日** 平成29年 9月24日（日）

9時00分～15時30分

**6、場所** 塩竈市 浦戸諸島 「野々島」

#### 7、参加者状況

	人数
児童	25人
学生スタッフ	62人
教員	3人
学外支援者	3人
保護者	5人
合計	98人

#### 8、当日スケジュール

時刻	活動内容	場所
8:30	受付開始	塩釜マリナーゲート
9:00	参加者集合	
9:30	乗船	
10:01	下船	野々島船着き場
10:10	出合いの集い	ブルーセンター前
10:45 ～ 11:45	探検&カヌー	野々島各場所
12:00	昼食	ラベンダー畑
13:00	レクリエーション	
13:50	別れの集い	ブルーセンター前
14:23	乗船	野々島船着き場
15:30	下船 解散	塩釜マリナーゲート

## 9、活動状況

### 受付・送迎

学生スタッフがマリンゲート塩釜のエレベーター前のホールにて参加する児童と保護者の受付を行いました。学生スタッフは個々の役割と担当する場所の最終確認をし、配置につきました。総合受付では参加児童と保護者の名簿チェック、保護者受付では、学生スタッフが児童の体調や連絡先、案内、同行する保護者の確認を行いました。児童受付では児童の胸元に名札を貼り、活動のしおりと班分けの色別ハチマキを渡し、各班の学生スタッフに引き継ぎました。4つの班（探検班3つ、カヌー班1つ）ごとに整列をし、全員で船着場へ移動した後、定期船への乗船時の注意事項を説明し乗船しました。児童は保護者の見送りに大きく手を振り、野々島への冒険の旅へと出航しました。船の中では、児童たちは緊張している様子でしたが学生スタッフと会話していくにつれ、笑顔になり野々島に早く着かないかとワクワクした様子でした。

途中、桂島から参加の児童1名と付き添いの学生スタッフが乗船し野々島に向かいました。

野々島に到着すると、学生スタッフと共に下船してきた児童たちをウェルカムボードを持って笑顔で迎えました。児童たちは、これから始まる島探検やカヌー体験にワクワクした表情をしていました。(写真1～3)。



写真 1



写真 2



写真 3

### 出合いの集い

児童たちの荷物を預かり、ブルーセンター前で出合いの集いを行いました。出合いの集いでは、主催者からの挨拶・島民代表からの挨拶をはじめ、島探検時の諸注意、そしてリハビリテーション学科の学生スタッフによる準備体操を行いました。その後班ごとにトイレ休憩を取って、探検に向けてしっかりと準備を整えました。

それから、探検班は学生スタッフと児童の仲を深める為に自己紹介などの軽いレクリエーションを行いました。少し打ち解けたのを見計らってから、それぞれ探検に出発して行きました（写真4、5）。

なお、カヌー班はカヌー乗り場での事前準備があるため準備体操前に一足先に出発して行きました。



写真4



写真5

## 野々島探検

今年の野々島探検は昨年まで好評だった宝さがし形式の探検にさらに手を加え、目的地ごとに児童にミッション（課題）を達成してもらうことを企画しました。具体的には児童に目的地の写真を見せ、しおりにある地図（図表1）の中から目的地を探し

てもらいます。目的地はボラや宇内浜など野々島の観光名所を設定しました。地図を頼りに目的地に到着したらミッションを一つ提示して児童に挑戦してもらいました。ミッションの内容は「自己紹介せよ」「お宝を見つけよ」「クイズに正解せよ」「集合写真を撮影せよ」の4つです。ミッションをクリアしたら次の目的地の写真を提示するという流れをラベンダー畑に到着するまで繰り返しました。探検班の各班編成は学生7～8名、児童7～8名からなるA班、B班、C班の3つの班でそれぞれ活動しました。

A班は自然塾→浦戸小中学校→ビーチ→ラベンダー畑というコースでした。A班はお互いのコミュニケーションに少し時間がかかったようでしたが、探検過程でみんなで協力してミッションをクリアしていくうちに次第に打ち解けて行き、みんな仲良くなりました。また、班の中で歩くスピードに差が出て離れてしまった時にも、先に歩いていたメンバーが後ろを歩くメンバーを待ってから進み始めるなどの配慮ができた。班としてまとまって行動することができました。

B班は夜泣き地藏→宇内浜→ビーチ→ラベンダー畑というコースでした。B班の児童はミッションを提示すると子ども達ひとり一人が真剣に活動に取り組んでくれました。ビーチに向かうまでの道のりが歩きにくく苦戦していましたが、急な坂では学生が補助をしながら目的地まで怪我することなくたどり着くことができました。

C班はボラ→風の丘→ビーチ→ラベンダ

一畑というコースでした。同じ班に顔見知りの子がいなく、最初は緊張している様子の児童もいましたが学生を介して児童同士も徐々に距離を縮めて行き、探検が終わる頃には班としての一体感ができていました。また、探検中での「宝探しをせよ」というミッションでは野々島の名産品であるラベンダーの苗を確保し、「集合写真を撮影せよ」というミッションでは海を背景に班ごとにチェキ（ポラロイドカメラ）での記念撮影を行い、児童全員にプレゼントしました（写真6～8）。



図表 1



写真 6 (A 班)



写真 7 (B 班)



写真 8 (C 班)

### カヌー体験

出会いの集い終了後、カヌー班の男子3名、女子3名はラベンダー畑に移動し、カヌー体験を行いました。カヌーに乗る前に準備体操をし、学生スタッフから乗船の注意事項の説明を受けた児童はライフジャケットを着用しました。

カヌー体験では監視船が見守る中、学生スタッフ2名、児童2名のグループに分かれ、3艇で野々島の海を自由に漕ぎました。学生スタッフを中心にパドルを漕ぎ、途中、児童にパドルを渡して漕いでもらい、乗船中は各グループ、学生と児童で会話も弾み有意義な時間を過ごすことができました。

下船後、集合写真を撮り探検班と合流して、昼食を頂きました（写真9）。



写真 9

## 昼食

昼食は“カレー”と“サンドイッチ”と“フランクフルト”、デザートに“フルーツポンチ”を用意しました。

カレーは人参、玉ねぎ、じゃがいも、豚肉をたくさん入れ、大きい鍋2つ分を、おいしいカレーを食べてもらいたいとの思いから前日から煮込んで準備しました。

サンドイッチは玉子サラダ、ハムチーズ、ツナサラダの3種類を当日に準備し、好きな種類のサンドイッチを児童に選んでもらいました。

フランクフルトは食べやすい大きさのものを用意し、当日にラベンダー畑で炭火を使って調理しました。

デザートにはフルーツポンチを作りました。パイナップル、ミカン、モモ、かき氷シロップを使った3種類のゼリーを用意し、児童に好きなものを取ってもらうようにしました。フルーツポンチに入れるドリンクもサイダーとカルピスを用意し、児童に好きな方を選んでもらいました。フルーツポンチは人気でおかわりする児童もいました。

カレーとサンドイッチ、フランクフルト、

フルーツポンチをトレーに乗せて運び、ラベンダー畑にあるウッドデッキで昼食を取りました。学生スタッフや児童同士で楽しそうに会話しながら食事をしていました。後片付けは学生スタッフが食器をまとめて片づけてくれたため、スムーズに出来ました（写真10～11）。



写真 10



写真 11

## お楽しみイベント

昼食後、お楽しみイベントとして「みんなでジャンプ」と「人間知恵の輪」を行う際、参加児童を三つの班に編成しなおし行いました。みんなでジャンプは、班全員で手をつないで円を作り、円の中心に学生が入ります。その学生が指示係として前後左右の指示を出すので、その指示された方向

に班全員で飛ぶというゲームです。このゲームは制限時間内に学生が指示した方向に何回飛べたかを競いました。

次に人間知恵の輪は班全員で円を作り、隣ではない人と手を繋ぐことで人間の手が知恵の輪のように複雑に絡むようにします。その状態から手を話すことなく綺麗な円の形になるまでの時間を競うゲームです。

どちらのゲームも児童が積極的に参加してくれたこともあり、終始賑やかな雰囲気でした（写真 12、13）。



写真 12



写真 13

### 別れの集い

お楽しみイベントの後、ラベンダー畑からブルーセンターに戻り、別れの集いを行いました。疲れの見える児童やまだまだ元気な児童など様々な表情を観ることができ

ました。学生総括リーダーの「楽しかったですか」という問いかけには、児童全員から「ハイ」の元気な返事が返ってきました。

別れの集いの後、参加児童、学生、教員など関係者全員で撮った集合写真を額に入れて、野々島ラベンダーの苗とともにプレゼントしました。児童たちはとても喜んだ様子で笑顔を見せてくれました。帰りの船の時間が近づく中、名残惜しそうな学生の姿と、野々島での活動を振り返って楽しそうに話す児童の姿が印象的でした（写真 14、15）。



写真 14



写真 15

## 送迎

すべてのイベントを終え、学生と児童との絆がより深まり、たわいない会話をしながら午後3時にフェリーでマリングート塩釜に到着。保護者へ児童をひとりずつ引き渡すとともに野々島での様子をお伝えしました。とても充実した1日を過ごしたようで、思い出話を話す姿や、別れを惜しむ児童が多く見られました。(写真16～18)



写真 16



写真 17



写真 18

## 10. まとめ

今回の活動は大きなけがや事故もなく、無事終了することが出来ました。

児童は初め緊張していたようですが、探検やカヌー、昼食などを通して多くの笑顔や本活動を楽しんでもらえている様子が見られました。学生スタッフも児童が危険な場所に行こうとしたり、ケンカなどが起きないように児童1人ひとりに気を配りながら一緒に楽しく活動出来ました。

しかし、反省点はあります。今年は例年より学生スタッフが多く参加しましたが、所々連携が上手く出来なかった部分がありました。

今回の活動で出てきた反省や課題等を改善し、次年度に繋げていきたいと思えます。

## iv.野々島プロジェクト 大学祭（国見祭）での活動報告

### 1. 趣旨

金ゼミと山口ゼミが合同で、東北福祉大学の大学祭「国見祭」に於いて展示会場を設け、活動報告を実施することとしました。展示会場では「島であそべんちゃーIN野々島」での活動を中心に、活動までの準備、島の概要、地域の方々との交流、島で育てているラベンダーを使ったポプリ作り体験、今年から新たにラベンダーの香水の香りづけと配布等を行いました。会場内での活動報告を通し、野々島の素晴らしい自然等を様々な人に知ってもらい、ぜひ一度は野々島を訪れていただきたいとの想いから、昨年度に引き続き実施しました。

### 2. 主催

東北福祉大学 金政信ゼミ  
山口政人ゼミ

### 3. 期日

平成 29 年 10 月 21 日(土)10 時～17 時  
22 日(日)10 時～14 時

### 4. 場所

東北福祉大学国見キャンパス  
2 号館第 18 演習室

### 5. 参加者状況

#### (1) 学生スタッフ数

	男	女	合計
21 日	7 人	17 人	24 人
22 日	8 人	9 人	17 人
合計	15 人	26 人	41 人

#### (2) 来場者数

	男	女	合計
21 日	75 人	106 人	181 人
22 日	25 人	57 人	82 人
合計	100 人	163 人	263 人

### 6. 活動状況

#### (1) 国見祭に向けての事前準備

9 月 24 日の「島であそべんちゃーIN野々島」での活動終了後、金ゼミ・山口ゼミで反省と活動の振り返りを行いました。その後掲示物班・ポプリ班・香水班に役割分担し国見祭に向けて作業を始めました

#### ・ 掲示物の事前準備

各班の掲示物はそれぞれ 3、4 人のグループに分かれ 4 月の交流会から野々島での活動内容までを分かりやすく模造紙にまとめました。

#### ・ 会場設営の事前準備

会場設営は 2 つのゼミ全員で机を設置したり掲示物を貼ったりしました。レイアウトを考えて見やすくより野々島の魅力が伝わるようにしました。掲示物だけでなく香水作りで使った蒸留器や野々島で実際に使用したウェルカムボードなども展示しました（写真 1）。



写真1

### ・香水の事前準備

野々島では、フラワーアイランド構想としてボランティアによるラベンダーなどのハーブの植栽活動が盛んに行われています。

私達はゼミ活動の一環としてラベンダーの栽培、農園の整備、除草、収穫を定期的に行っています。収穫したラベンダーは山口ゼミ生が中心となってオリジナルのデザインを企画しポプリ作りを担当してきました。そして今年から新たな取り組みとして、ラベンダーの香水作りに挑戦しました。6月末にラベンダーの蕾を収穫し、7～8月の2か月間陰干しをして乾燥させた後、茎から蕾をふるい落とし、たくさんの蕾を回収しました。そして3日間かけて蒸留器を用いて香水を完成させました。5mLのエッセンシャルオイルと1.5Lのフローラルウォーターを得ることができました。ラベンダーの華やかな香りで市販品と比べても劣らない品質です。これらをガラス製サンプル瓶に入れたり、カラフルなアトマイザーに小分けし、国見祭の来場者の方に提供することにしました(写真2、3)。



写真2



写真3

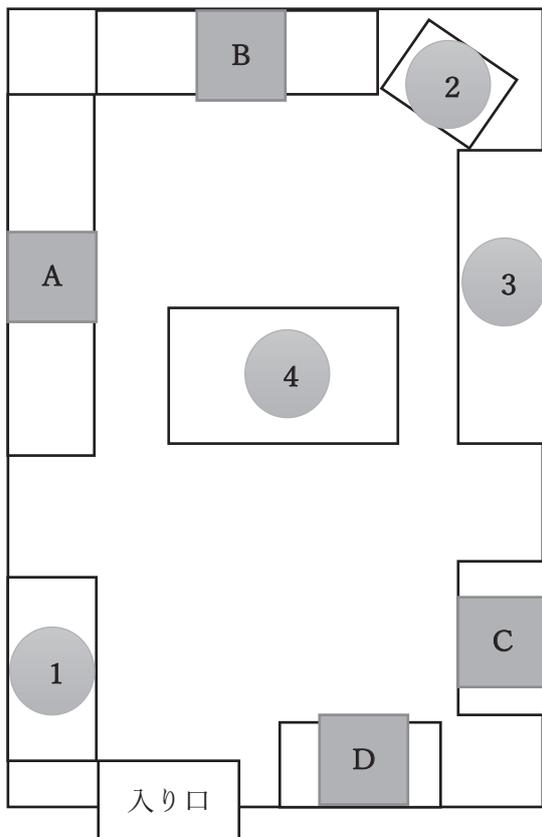
### ・ポプリの事前準備

ポプリ班は、山口ゼミ2年生が中心となり今回は巾着型のみで作成となりました。ポプリの材料は野々島で収穫したラベンダーを乾燥したものを用いました。デザインを袋状の巾着型のみで絞り一つ一つ心を込めて作成しました。ポプリの制作個数は合計72個でした。

## (2) 国見祭当日

私たちが行ってきた野々島での活動をまとめ、A野々島について、学外講師の菊地先生と越路先生による事前講習会、事前準備について、B「島であそべんちゃーIN野々島」各担当別活動内容、スケジュールについて、C「島であそべんちゃーIN野々島」活動内容について、D野々島のラベンダーと香水づくりについて、4つのブースに分

けて展示しました。



- 1：受付
- 2：スライドショー
- 3：野々島について
- 4：ポプリ作り、葉の香りづけ体験コーナー
- A：野々島について、学外講師の菊地先生と越路先生による事前講習会について、事前準備について
- B：「島であそべんちゃーIN 野々島」各担当別活動内容、スケジュールについて
- C：「島であそべんちゃーIN 野々島」活動内容について
- D：野々島のラベンダーと香水づくりについて

展示室内の配置図（図表1）

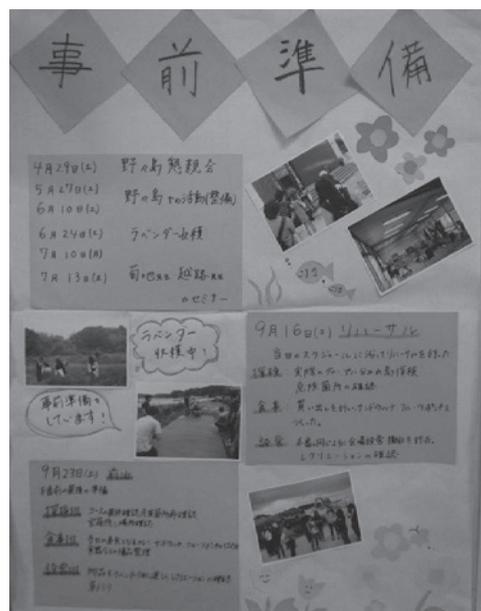


写真4



写真5

又、島での活動がわかりやすく伝わるようにスライドショーを作成し、当日の活動や事前準備の様子を映し出しました（図表1、写真4、5、6）。



写真6

野々島についての展示では、多くの来場者が野々島について興味を持っていただいたようです。「以前行ったことがあります、懐かしく思いまた行ってみたい」「是非こんど行ってみたい」などのお声を頂きました。

ポップリ作り、葉の香りづけ体験コーナーでは、当日はあらかじめ準備した香水を小瓶に移し替え、2号館1階「south commons」にて工芸館クラブ「風の会」の葉作り体験で作成した葉を持ってきて頂いた方にラベンダーの香り付けを行い、数量限定で小瓶に移し替えた香水をプレゼントしました。ラベンダー100%の香りは来場者にとてもご好評いただきました。また、野々島で収穫したラベンダーを用いてポップリづくりを多くの方に体験していただき、用意していた巾着の在庫はすぐになくなり大盛況でした（写真7）。



写真7

昨年もお来場いただいたお年寄りの方々、また野々島を知らないの方々など小さな子どもから大人まで幅広い世代の方々に来場して頂きました。

### （3）片付け

活動報告などで作成した模造紙などは今後の野々島での活動の参考資料として活用すべく丁寧に保管しました。また、ひとり

一人が集中して作業を行ったため、スムーズに片付けを終えることができました。

## 7. 大学祭の感想と反省

今回の大学祭には、昨年同様、老若男女多くの方々、そして今年度の野々島の活動に参加して下さった子どもたちにも来場して頂きました。掲示した展示物や野々島のラベンダーを使ったポップリや葉の香りづけ体験を通じて、野々島の魅力や私たちの活動を多くの方々に知っていただく機会になった大学祭であったと思います。さらに、野々島での活動を改めて自分たち自身で振り返ることのできた良い機会でした。また、事前準備から片付けも全員で協力して作業することができました。

反省点としては、来場者の方々への詳細説明を積極的に行えなかったことが挙げられます。この問題の改善点として、来年度からは受付や各種体験活動担当の他に、来場者への説明担当を設けるべきだと考えます。

## v. 「島であそべんちゃーIN 野々島」

### 参加者への満足度調査 実施結果報告

本節では活動に参加して下さった児童やその保護者に活動後に実施した、満足度調査の実施結果についてまとめたものを紹介します。本調査は、金ゼミ4年生が、毎年卒業課題研究として実施しているもので、今回で3回目となります。塩竈市内の全小学校(7校)の4年生に募集要項を配布し、希望者の中から抽選で選ばれ「島であそべんちゃーIN 野々島」に参加した児童25名中、21名とその保護者から回答を得る事ができました(回収率80%、有効回答率100%)。また、今回は同行した保護者2名からも別途回答を得る事ができました。

また、本調査の概要や調査結果、その考察については平成30年2月8日に実施しました、金ゼミ4年生卒業課題研究「島であそべんちゃーIN 野々島、参加者満足度調査結果報告会」で報告するとともに、「アンケート調査結果報告書」を作成いたしました。

なお、「アンケート調査本報告書」を閲覧したい、ご質問等のある方は、直接、東北福祉大学、金政信研究室までメール(mkon@tfu-mail.tfu.ac.jp)にて御問い合わせください。

#### 1. 調査結果のまとめ

これまで実施しました「島であそべんちゃーIN 野々島」参加者へのアンケート調査結果(平成27、28年度の2回実施)を振りかえってみると、両調査とも満足度の高い調査結果となりました。

今年度実施の調査結果からも、これまで同様に満足度の高い調査結果を得ることが

出来ました。

例えば、全体を通しての参加についての良し悪しについての質問、親問3「この活動に参加させて良かったですか」と子問2「この活動に参加してよかったですか」でも、これまで通り児童や保護者共に全員から「良かった」との回答を得ることが出来ました。

また、今年度は同行した保護者の方々にもアンケート調査を実施いたしました。参加した児童や同行した保護者、その保護者の方々から、「子どもへの対応」、「同行する保護者への対応」の良さが挙げられており、これまで通り満足度の非常に高い活動であったことが伺えます。東北福祉大学に在学する学生の真摯に向き合う人間性や仕事ぶりを評価してくれた。また、参加児童・保護者に対して気配り・気遣いをしっかり出来たことと思っております。

そこで本節では、以下、その要因について今年度のアンケート調査結果の分析を基に述べて行きたいと思えます。

満足して頂いた要因を立証するために、ここでは「満足度の高かった点」と「改善点、検討が必要な点」とに分けて考えていきたいと思えます。

まず初めに、満足の高かった点を6つの視点(1)リスク管理、(2)活動内容(3)活動への期待、(4)活動による効果、(5)学生の関わり方、(6)実績の積み重ね、に分けて改めて整理することにしました。

次に、改善点、検討が必要な点を、(1)改善の必要な点、(2)検討・提案、に分け

て整理してみたいと思います。

そして最後に、まとめを述べて今後の活動をより良いものにするために繋げていきたいと思います。

## 1) 満足度の高かった点 (6つの視点)

### (1) リスク管理

・大学が主体、塩竈市教育委員会が後援者となっている活動であるため、安全・安心、信頼できる活動であるとの認識が強いと思われる。

・今年度で4回目の活動と言うこともあり、児童や保護者への認知度や評価も得られていると推測できることから、不安はなかったのではないかと考えられます。

・この活動を実施する前に、申込書に記載されている内容（要望等）や決定後の確認連絡等で各参加児童についての特徴や性格などを把握し、活動を行ったことで大きなトラブルもなく活動を実施出来ました。

・本活動を準備する過程で、事前学習として児童への接し方や自然体験学習の心得などを専門の先生から指導を受けたうえで、児童たちへの配慮を意識した接し方や安全を考慮した遊び、子ども達の好みを考えた食事などを準備することが出来ました。

### (2) 活動内容

昨年と同様に、島探検とカヌー体験を中心に普段の生活では経験出来ない、自然を用いた体験活動を行うことが出来た。友達が出来た。みんなと一緒に活動できた喜び等、児童・保護者共に、体験を通じて得られる学びは大きなものであったと考えられます。

例)「今まで体験したことのない楽しい内容だった(島体験、知恵の輪)」、「普段できない体験が出来たから」、「ディキャンプの

ような自然を楽しめたことと、普段、接する事のない大学生との交流が楽しかったようです」、「友達もできたし、集合写真を見て思い出すと楽しい気持ちになる」、「みんなイベントに参加できて楽しかったから」(子問2-2自由記述より抜粋)

### (3) 活動への期待

・自然体験活動に参加する機会が少ないことから、日頃体験出来ない活動が本活動に参加することで得られると考えます。

・本活動を通じて、保護者は子の自立性・責任感などの人間性を高めて欲しいと思っています。

・保護者の活動への思いは以下のような事由記述からも、うかがい知ることができました。

例)「親でもなく先生でもない大学生のお兄さんお姉さんと触れ合い、将来についても話がしやすいなと思った」、「たくさんの人とふれあっているいろいろな事を学ぶ事ができるとおもった」、「交流を含め、いろいろな体験をさせたい」、「自然に触れる事はとてもよい」、「地域やお友達との交流をどんどんさせたい」、「色々経験させて成長するところを見たい」、「いつもは周りにいない大人や子どもの仲で協同して事を成してもらいたい」(親7-2自由記述より抜粋)

### (4) 活動による効果

・本活動での、自然体験や、他の学校のお友達や大学生と交流を通して、「自信がつき、積極的になったと思う」、「自分に自信がもてたようだった」、「チャレンジ精神が少しでてきた」、「テンションが高かった」「よく話すようになった」との回答を得ることが出来ました。また「今後の人生に置いて必ずプラスになると思う」という回答も見ら

れ、本活動には子どもたちにとって楽しいだけでなく、新たな価値観や心情的・行動的な変化を与える効果があったのではないかと考えられます。

例)「楽しかったと言っていたのでそれだけでも参加させて良かった」、「嬉しそうに体験したことを話してくれた」、「一日だけでも友達ができたので嬉しそうでした。休みの日はほとんど一人で過ごしているの・・・」、「知らない方々とふれあう事ができ、参加させて良かった」、「はじめて会うお友達ともお話しできたりして参加させて良かった」、「笑顔で満足して帰ってきた」、「一人で参加しても楽しんでこられて本人の自信となったようだ」「楽しかった話をたくさんしてくれた」(親問 3-2 自由記述より抜粋)

「子供が親と離れて1人で船に乗り、日常体験できないことをするという活動が子供にとってとても思い出になり、嬉しく思います」、「島に行ったことも楽しかったけど大学生とのふれあいが楽しかったと言っていました。若いお兄さん、お姉さんと話をしたり、活動したことがとても楽しかったようです」、「貴重な体験になり、良き思い出にもなり成長にも繋がるので素晴らしいと思います」、「大人ではなくお兄さん、お姉さんという存在が子供にとっては親近感や憧れ、接しやすさがあってよかった」(親問 11 自由記述より抜粋)

「今まで体験したことのない楽しい内容だった」、「普段できない体験ができたから」、「楽しかった」、「おもしろかった」、「ディキャンプのような自然を楽しめたことと、普段、接する事のない大学生との交流が楽しかった」、「友達もできたし、集合写真を

見て思い出すと楽しい気持ちになる」、「みんなで楽しくできた」(子問 2-2 自由記述より抜粋)

#### (5) 学生の関わり

今年度のアンケートは、親問 5、親問 5-2、親問 6、親問 6-2、問 2 (同行)、問 2-2 (同行)、問 4 (同行)、子問 12、子問 12-2 の調査結果から「学生の対応は良かった」との高評価を得ることが出来ました。具体的には、親問 5-2 では「笑顔で明るく対応してくれた」、「親切・丁寧」では、「丁寧な対応をしてくれた」、「スムーズ」では「入り口からの誘導がスムーズだった」、親問 6-2 では、「明るく笑顔で見送ってくれた」、「島での事をきちんと報告してくれた」、「しっかり対面で対応してくれた」等、学生たちの対応や接し方は保護者の方や子どもたちにとって良かったのではないかと思います。これは、学生たちが笑顔や丁寧な対応を意識してできたからであると推測できます。また、今回初めて行なった同行者への設問、問 2-2、問 4 からは「子供の名前を覚え、また子供たちにもお兄さんお姉さんではなく、名前を呼び合っていたのと笑顔で積極的に声をかけてくれた」、「子供達一人一人に対する学生達の接し方や気配りができていて、子供達も不安がらずに活動できたのではないかと」、「保護者に対してもとても気をつけていただきました」、「学生のみなさん、明るく笑顔で子供達接していて印象が良かったです」と直接学生の活動をみての感想も得ることが出来ました。

参加した児童からは、問 12-2 から、大学生のお兄さんやお姉さんが「優しかった」、「面白かった」に属する記述回答が多く、現場での児童とのコミュニケーションがき

ちんと図られている場面が多く見受けられました。児童と共に活動していく中で、仲を深めることから安心感を与えることができたのだと推測できます。

#### (6) 実績の積み重ね

今年度で4回目を迎えた活動と言うこともあり、児童や保護者への本活動への認知度も高くなっていると思います。参加した児童や家族からの口コミ、活動への評価、事前に配布した募集要項の内容による宣伝効果などもあると考えます。

また、親問2や親問2-2からも、本年度は昨年度よりも「信用」しているとの回答が高くなっており、このことは本活動に対する信用がさらに増したものと推測することができます。「大学というバックアップがあったから」「ボランティアの学生が多いから」「兄も参加しており、安心して楽しんできたので」という記述回答もありました。大学のバックアップや学生の人数で参加児童に付き添うためのリスク管理ができていると保護者が判断したとも推測できます。

さらに、今年度は、「昨年兄や姉が参加して楽しんでいたので不安はなかった」という回答もありました。

このような回答を得た背景には、教育委員会の後援や主催が大学、大学生のお兄さんお姉さんが対応してくれる、これまでの実績を評価して頂けたことが、保護者の不安解消や、安全・安心感に繋がったものと推測することができます。

更には、これまでの活動の記録や、アンケート調査結果から得たデータや、先生方からの適切なアドバイスを頂きながら、何度も試行錯誤しながら参加児童に真摯に向き合い接していることが好評化につながっ

ているのではないのでしょうか。

以上6つの視点について、本調査結果を振り返ることで今年度の活動も、参加児童や保護者の皆様から非常に高い満足度を得られたものと考えました。

## 2) 改善点、検討が必要な点

### (1) 改善の必要な点

#### ①児童間交流

「交流」に関する回答が昨年度よりも低くなってしまいました(親図表12)。本活動は塩竈市内の小学4年生を対象に実施しています。本活動は各小学校の垣根を超えた児童間交流の場ともなっており、このことは塩竈市の学力向上プランでも評価されているところでもあります。よって、例えば探検の移動時間や、お昼時間などの時間を活用して、学生が「みんなお友達になった？」など積極的に声かけを行う。同じ班になった児童同士が友達になれるように学生が後押しする。自己紹介の時点で児童たちに穴埋め式のプロフィールを配りみんなでその穴埋めをさせることでのアイスブレイクを行うなどの配慮や工夫することで交流の機会を増やして行く事が必要でしょう。

#### ②受付

「対応は丁寧だったが受付の仕方がわかりにくかった」等、受付の仕方が分かりにくいという意見もいくつか頂きました。例えば、最初に行う受付を保護者と子どもの2つに分けるのではなく、一緒に受付を行えばよいのではないのでしょうか。そうすることで、分かりにくいという意見を頂く事はなくなると推測できるので、完璧な受付対応ができるのではないかと考えられます。

### ③引き渡し時の保護者への報告

「もう少し島でのことを教えてほしかった」という意見も頂いたので、今後の活動では島での子どもの様子を保護者の方に報告するということを義務づけて行くと、保護者の方も安心するのではないのでしょうか。

### ④カヌーの人員の確保

カヌー体験を希望する学生が今年も多く今年も抽選となりました。そのため、「カヌー体験を希望していたが島探検になってしまった、島探検も楽しかったがカヌー体験がやりたかった」「カヌー体験が目当てで、できなかったのが、不満があった」との意見が昨年度に引き続き今年度も見られました。カヌーの隻数と安全面を考慮すると、児童の受け入れは6名が限度であり、今後カヌー体験の人数を多くするにはどのような対応をとるべきか、カヌーが体験できるイベントの提案等を議論すべきであると考えられます。

### ⑤参加への不安

参加児童からの回答に、「知らない人たちと大丈夫か」や「友達が出来るか」と活動に関する心配する記述がいくつかありました。参加児童やその保護者には事前に本活動の内容等については募集要綱を通して伝えているものの、特に人間関係に対する不安を感じている児童が多く、今後も不安を抱えながら参加する児童がいることを意識し、不安を少しでも早く軽減できる内容を考えて行く必要があると考えます。

これまで以上に、児童たちへの配慮を意識した接し方や安全を考慮した遊び、子ども達の好みを考えた食事などを準備するとともに、大学のHPや募集要項に児童がワクワクするような内容を盛り込むなど参加児

童や保護者の不安や心配を少しでも解消できるように取り組んで行きたいです。

## (2) 検討・提案

### ①参加費用について

昨年と同様にはなりますが、親問8「同様の日帰りの企画で参加費を徴収するならば、いくら位が妥当だと思いますか」の間では、500円～1000円程度なら徴収してもよいのではとの回答が約8割近く寄せられました。これまでの活動は大学への寄付金を活用し無料で行ってまいりました。参加児童一人当たりの主経費は、保険費用、食費、プレゼント（記念写真と額、ラベンダーの苗）となります（※船舶費は塩竈市内の就学生は無料）。昨年度と今年度の結果を踏まえると、妥当な参加費の最低額が500円程度という結果から今後活動を継続するために500円程度であれば徴収も可能ではないかと推測できます。また、大学側からの援助額によっても参加費として多少徴収してもよいかもしれません。今後検討の余地があるかもしれません。

### ②活動時間について

親問9「活動時間はどれくらいが良いと思いますか」という設問に対して「今回同様が妥当である」との回答が最も多くありました。午前9時の船に乗り、午後2時の船で帰宅するというスケジュールでした。しかしその一方で、一泊二日や1～2時間の活動時間の延長を望む意見もありました。多少の物足りなさを感じた保護者もいたようです。

しかしながら、本活動は学生が主体となっていて行っているため一泊二日での活動となると長時間に渡るため児童への気配りや目

配りが増加し、学生一人にかかる負担が大きくなるなどのリスク管理の面や大事なお子さんを二日間預かる事による保護者の不安増大などから現段階での実現は難しく、今後の課題であると推測できます。活動の時間の延長や一泊二日にするならばサポート学生の人数を増やすことや参加児童数を減らすといった手立てや、これまで以上の準備期間の確保やリスク管理の強化などが必要であると考えられます。

よって、現状では参加児童を同様の時間内でより楽しめる企画作りを行っていきとよいと考えます。

### ③食事について

今年度の食事では、「カレー」「サンドウィッチ（たまご・ツナ・ハムチーズ）」「フランクフルト」「フルーツポンチ」の4種類のメニューを用意しました。何れのメニューも満足度は高く、特にカレーは高く、フルーツポンチも参加児童が自分で盛りつけをするメニューであり、好きな具材のみで作れたため高評価を得ることが出来ました。

そのような調査結果の中、食べたいメニューとして28年度、27年度同様、バーベキューと回答した児童が最も多い結果を得ました。バーベキューは毎年希望が多いのですが、昼食に取られる時間や安全面等の問題で実施できていません。食事の時間や、企画自体の時間を延ばしたり、安全面を考慮したりして実施できると満足度がさらに高まるものと考えられます。27年度に昼食で出した芋煮も毎年多くの児童が希望しています。外で食べるのにはぴったりの料理であり、宮城では馴染みの深い料理でもあるため、また汁物として出すのもよろしい

のではないかと考えます。

### 3)まとめ

小学生4年生は好奇心旺盛な多感な時期でもあると思います。そのような時期に保護者から離れて参加するこの活動は、自立性や協調性等を育むよい機会になったと思います。

活動への期待でも述べましたが、「たくさんの人とふれあっているいろいろな事を学ぶ事ができるとおもった」、「交流を含め、いろいろな体験をさせたい」、「自然に触れる事はとてもよい」、「地域やお友達との交流をどんどんさせたい」、「色々経験させて成長するところを見たい」、「いつもは周りにいない大人や子どもの仲で協同して事を成してもらいたい」等の感想が多く保護者から寄せられました。また、活動による効果でも「子供が親と離れて1人で船に乗り、日常体験できないことをするという活動が子供にとってとても思い出になり、嬉しく思います」、「島に行ったことも楽しかったけど大学生とのふれあいが楽しかったと言っていました。若いお兄さん、お姉さんと話をしたり、活動したことがとても楽しかったようです」、「貴重な体験になり、良き思い出にもなり成長にも繋がるので素晴らしいと思います」等、の感想が多く寄せられました。そのような、感想を読んでいると参加した児童が家に帰って笑顔で活動について話をする姿を想像することが出来ました。私たちが本活動をこれからも続ける、行う意義はとても大きいと思います。保護者にとっても子どもの変化を知るよい機会になったことでしょう。私たち学生自身も本活動を通して社会人に必要な基礎的力を得ながら、組織内での役割を理解し、互い

に補う補完関係を体感することが出来ました。また、責任感を醸成し組織的な活動と様々な人への配慮の仕方も学ぶことが出来ました。

一方で、今年度も昨年度同様に、安心感に付随する心情に関する不安理由が多く寄せられました。特に人間関係に対する不安を感じた児童が多く、今後も不安を抱えながら参加する児童がいることを意識し、不安を少しでも早く軽減できる内容を考えて行く必要があると思います。跡を継ぐ後輩の皆さんには、良い点を継続することはもちろんのこと、本調査の結果や活動の振り返りで得た反省点や・改善点をきちんと次の活動に生かして欲しいと思います。

最後にはなりますが、来年度、再来年度と「島であそべんちゃーIN野々島」が実り多い活動となるよう祈念しております。

## vi.野々島での学生活動のふりかえり

金 政信

本活動も4年目を迎え、活動を担う学生にも多少余裕がみられるようになり活動にも幅が出てまいりました。毎年9月の後半に実施している、子ども支援活動（島であるそべんちやーIN野々島）を中心に、ラベンダー畑の伐採作業、野々島にお住いの皆様との交流会の実施（昨年度のバーベキューを交えての活動報告や、理学療法士を目指すリハビリテーション学科の学生によるマッサージの提供等）、活動施設の整備、共有地の清掃（草刈りや除草作業等）、ラベンダーの手入れと収穫、島歩きイベントの開催、島であるそべんちやーIN野々島の開催、大学祭での野々島の紹介や活動報告の実施、活動拠点の冬支度を行ってまいりました。今年は、新たな取り組みとして、収穫したラベンダーの蕾を使用した「ポプリ」づくりに加えて、少量ではありますが「香水づくり」にも挑戦しました。香水づくりは、乾燥や蒸留等手間のかかる作業ではありますが、来年度は商品化も視野に入れた取り組みにしていきたいと思えます。

その反面、活動を振り返りますと、4年間の活動の慣れからくる準備面の甘さや気配りの欠如、危機管理の面での不備も見受けられました。来年度は、気を引き締め、初心を忘れず地道な活動（行動）に徹していきたいと思えます。また、新たに活動に加わる学生の指導にも繋げていきたいと思えます。

また、本活動への学内外の評価や関心も高まってまいりました。大学の社会貢献・地域連携活動として、ホームページ内に掲

載のキャンパスニュースにも何度か掲載されました。大学案内の東北福祉大学の魅力の中にも掲載されております。そのような事もあってか、入学希望者の中には本活動に参加したいとのことで受験した学生もいました。また、塩竈市内の小学生や保護者にも、参加した児童や保護者等を介して本活動が徐々にではありますが広がっているようです。さらには、今年度から塩竈市（塩竈市教育委員会）で実施されております、塩竈市学力向上プラン（第4次：平成29～31年度）との連携も踏まえた活動（事業）にも本活動を加えていただきました。特に取り組み方針の1つである「活躍と交流」の中の、塩竈市の子どもたちに身につけさせたい力の1つ「社会をたくましく生き抜く力」の一役を担うものと評価していただいております。とてもありがたいことです。

最後になりますが、ご後援頂きました塩竈市教育委員会はじめ、本活動にご理解いただきご支援いただきました塩竈市内の小学校、行政、協力団体・協力者の皆様、自然体験の心得や児童に対する接し方について毎年ご指導やご同行頂きました、菊地淳先生、越路明美先生、そして本活動を温かく見守り支えていただきました、浦戸諸島開発総合センター（ブルーセンター）や野々島自然塾、島民の皆様に、この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。

野々島プロジェクトは異なる 2 つの学科のゼミが主催する混成チームによる地域貢献活動です。3 年生はリーダーシップを発揮し組織運営と 2 年生の教育指導を行ないます。責任感や状況判断力、現場調整力、対人対応力が求められます。2 年生は 3 年生の指導のもとスタッフとしての自覚が芽生えます。課題に向き合い試行錯誤して乗り越えていく経験は素晴らしく、一年を終えると学生達は逞しく成長します。「結果が見えなくても思いきって行動する力」、「多様な人々と協働する力」が身に着くなど一人一人に何らかの変化が観察されます。今回は学生の質的变化をもたらすと思われる行動内容について整理してみました。

---

#### ○フェーズ 1：導入

##### 「島民との交流会（4 月）」

交流会の目的を考える・年度初めの企画・如何に計画し実行するか試練を味わう

#### ○フェーズ 2：準備段階①

##### 「島の環境整備・植栽活動（5～6 月）」

環境整備の目的を考える・行動目標を設定する・時間管理する・協働する意識を持つ・計画と実際のギャップを知る

#### ○フェーズ 3：準備段階②

##### 「ラベンダー収穫祭（7 月）」

自然と親しむ・楽しむ・イベント企画する・本番を想定し食材準備する・野外で調理する・テント設営する・協働作業する・時間管理する・もの作り(ポップリ・香水)を企画する

#### ○フェーズ 4：準備段階③

「外部講師によるセミナー開催(7 月)：知的作業と演習活動」

野外活動の心得・子どもの特徴と接し方を学ぶ・危機意識と危機管理について考える

#### ○フェーズ 5：準備段階④

##### 「島であそべんちゃー・リハーサル(9 月)」

課題点を抽出する・対策会議する・計画を見直し改善する・準備の重要性を再認識する

#### ○フェーズ 6：本番の運営

##### 「島であそべんちゃー（9 月）」

本部と現場チームを連携する・時間管理する・変更と調整を経験する・危機管理する

#### ○フェーズ 7：活動内容の整理と披露の場「国見祭（10 月）」

地域発信の意義を考える・活動内容を整理する・静的表現を企画する(ポスター・映像)・動的表現を企画する(参加者体験型ものづくりコーナー[ラベンダーポップリ、香水づくり])

#### ○フェーズ 8：野々島活動の省察

##### 「活動報告会（12 月）」

目的と成果を整理する・課題点を抽出する・対策案を考える・プレゼンテーションする

---

今年のおそべんちゃーは昨年に増してきめ細やかに運営でき子どもとの触れ合いも充実しました。この背景には毎回の振り返り作業の徹底化が挙げられます。特に 3 年生達は経験から学んだ事を次に活かす努力をしてきました。経験学習のサイクルが出来つつあり、本活動の質的向上に繋がっていると思います。最後になりましたが今年も無事に活動を終えることが出来ました。ご支援を頂きました全ての関係者の皆様に御礼を申し上げます。



## Ⅲ. 学生企画事業

### ⅰ. ことばの貯金箱

三浦和美ゼミ：「ことばの貯金箱」in 七ヶ浜

#### <1 回目>

##### 1. 事業名および趣旨

事業名：ことばの貯金箱 in 七ヶ浜  
趣旨：ことばの貯金箱（NIE 活動）  
を通して、子どもたちが新聞に興味・  
関心を持ってもらうことや表現力、語  
彙力の向上を図ること。また、言葉  
を用いて自分の気持ちを表現すること  
で、心のケアをすること

##### 2. 開催団体名

東北福祉大学教育学部 教育学科  
三浦和美ゼミ

##### 3. 活動日時

平成 29 年 10 月 22 日（日）  
10：50～18：00

##### 4. 開催場所

七ヶ浜生涯学習センター 1、2 演習室

##### 5. 参加者の状況

（対象者、参加者数、開催者数）

対象者：七ヶ浜町の小学生  
参加者数：8 名（小学生 8 名）  
開催者数：9 名（学生 8 名・2 年生 6 名・  
3 年生 2 名、担当教員 三浦和美）

##### 6. 開催内容

（当日のスケジュール、活動状況など）

当日の日程

10：50 東北福祉大学前駅集合  
11：20 仙台駅 合流  
12：00 下馬駅 到着  
12：14～12：40 移動（ぐるりんこ）  
12：40～13：30 到着、会場設営、昼食  
13：30～13：55 受付

14：00～14：10 開始、アイスブレイク、  
ことばの貯金箱説明

14：10～14：40 切る活動

14：40～14：50 休憩

14：50～15：40 貼る活動

15：40～16：00 作品発表、終了

16：00～16：30 反省会、撤収作業

16：30～16：45 移動（タクシー）

16：45 下馬駅到着

17：15 仙台駅到着

17：40 東北福祉大学到着、解散

##### 7. 活動報告

###### 7.1 会場設営（1、2 演習室）

テーブルを 2 つ合わせたものを 2 セット  
用意し、広く活動ができるように設定  
した。

###### 7.2 アイスブレイク

活動を始める前に、緊張をほぐし、学  
生と参加者とは仲良くなり、活動しやす  
いようにと考え、アイスブレイクの時間  
を設定した。担当がルールを説明した後、  
自由に室内を動き回りながら行った。



写真 1：アイスブレイクの様子 1



写真2：アイスブレイクの様子2

### 7.3 「ことばの貯金箱」活動

#### ①「ことばの貯金箱」活動の説明

昨年活動を行った3年生の学生から、事前に準備していた活動の流れの図を基にして、作業の説明と言葉を選ぶ際のポイントについて解説をした。



写真3：「ことばの貯金箱」の説明

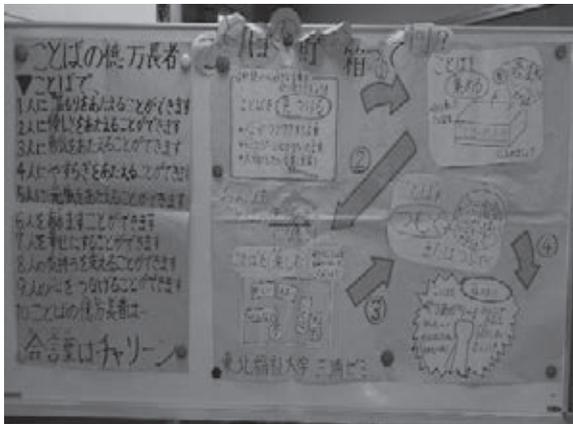


写真4：活動の流れの図

#### ②新聞から自分の好きな言葉や写真を切り取り、台紙に張り付ける活動

新聞紙、言葉を集める貯金箱、はさみ、のりを各参加者に渡し、活動を行った。

学生は小学生1人に対して1~2人がつき、声かけや活動の支援を行った。新聞紙からなかなか言葉選びができない子に対しては、「子ども新聞」を用意し、探しやすい工夫を行った。



写真5：はさみで切り抜く様子



写真6：はさみで切り抜く様子



写真7：言葉や写真を貼る様子



写真8：ことばを書き加える様子

言葉や写真の切り取りが進んでいくと、合言葉である「ちゃり〜ん」や「いいね!」という言葉が、絶えず会場を飛び交うようになった。作品の貼り付けの活動では、最初1人に1枚の台紙を配布していたが、言葉や写真をもっと貼りたいという声が聞こえたため、必要な子どもには追加で台紙を配った。大きな作品を作成した子どももいた。

#### 7.4 作品発表

子どもたちが作った作品のお気に入りの言葉や写真、作品のテーマを発表した。

学生は子どもの作品を持ったり、発表のポイントを聞いたりして、作品の発表への支援を行った。



写真9：作品の発表の様子

#### 7.5 賞状贈呈

今回参加した子どもたちの活動に対して励ましと次回活動への促しができるようにと考え、手づくりした賞状を参加者全員に贈呈した。

子どもたちがとても喜んでいたので、次回への参加が楽しみとなった。

## 8. 感想

### <学生>

・2年生にとって初めてのことばの貯金箱の活動になったため、3年生の助言を受けながら活動を進めた。当日初めて子どもたちを前にして、3年生の声掛けを見て学びながら行う面もあった。笑顔で子どもたちと接することができ、子どもたちも時間が過ぎるのがあっという間だったと言うほど楽しんでくれたのが励みになった。

### <教員>

・2014年度から七ヶ浜町で「ことばの貯金箱」の活動を開始して4年目を迎えた。2012年度に2年生だけの活動から始めたのだが、その時の学生たちは今年の春から小学校教員・特別支援学校教員となって各地で活躍するようになった。この活動で子どもたちと出会い、活動の楽しさやそれを生み出すための苦労も味わったことで改めて教育の大切さを学ぶことができたと考える。今年の活動も子どもたちや保護者の皆様から「来年もぜひ」とお声がけいただいたこと、昨年参加した学生たちが「続けたい」と希望したことで実現した。メンバーの入れ替えはあるが、子どもたちとの関わりが深まっていくのを間近で見ることができ、この活動の良さを感じた。

## 9. 活動を通して学んだこと、課題

計2回の「ことばの貯金箱」の活動のうち、第1回目を無事終えることができた。

大学祭に近いこともあり学生間での連携を取りながら準備を進めることがなかなかできず、慌ててしまうことになった。具体

的には、事前の準備不足と様々な場面の想定不足である。会場設定、受付方法などが曖昧であった。次回からは場を想定して事前に会場のイメージを作っておき、それを学生同士で共有していきたいと考える。

また、反省の中には3年生から口頭で知らされていたものもあったが、前年度の報告書を共有していれば生かされたのではないかということにも気がついた。活動を継承していくという認識を持ってこれからの活動に当たりたいと考える。

(渡辺 萌美)

## <2回目>

### 1. 事業名および趣旨

(1回目に同じ)

### 2. 開催団体名

東北福祉大学教育学部 教育学科  
三浦和美ゼミ

### 3. 活動日時

平成29年11月26日(日)  
10:50~18:00

### 4. 開催場所

七ヶ浜生涯学習センター 1、2演習室

### 5. 参加者の状況

(対象者、参加者数、開催者数)

対象者:七ヶ浜町の小学生  
参加者数:4名(小学生8名)  
開催者数:9名(学生8名:2年生6名・  
3年生2名、担当教員 三浦和美)

## 6. 開催内容

(当日のスケジュール、活動状況など)

当日の日程

13:30~13:55 受付

14:00~14:10 開始、アイスブレイク、  
ことばの貯金箱説明

14:10~14:40 切る活動

14:40~14:45 休憩

14:45~15:35 貼る活動

15:35~15:40 ラミネート加工

15:40~16:00 作品発表、終了

16:00~16:30 反省会、撤収作業

※移動時間(往復)は1回目と同じため省略。

## 7. 活動報告

### 7.1 会場設営(1、2演習室)

1回目と同じため省略。

### 7.2 アイスブレイク

活動を始める前に、緊張をほぐし、学生と参加者とが仲良くなり、活動しやすいようにと考え、アイスブレイクの時間を設定した。

### 7.3 「ことばの貯金箱」活動

#### ①「ことばの貯金箱」活動の説明

事前に準備していた活動の流れの図を基にして、作業の説明と言葉を選ぶ際のポイントについて解説を2年生が行った。今回はカレンダーを作ることを伝えた。

#### ②新聞から自分の好きな言葉や写真を切り取り、台紙に張り付ける活動

新聞紙、言葉を集める貯金箱、はさみ、のりを各参加者に渡し、活動を行った。

学生は小学生1人に対して1~2人がつき、声かけや活動の支援を行った。新聞紙からなかなか言葉選びができない子どもに対しては、「子ども新聞」を用意し、

探しやすい工夫を行った。言葉や写真の切り取りが進んでいくと、合言葉である「ちゃり〜ん」や「いいね!」という言葉が、絶えず会場を飛び交うようになった。



写真1：「ことばの貯金箱」の説明



写真2：「カレンダーづくり」の説明



写真3：はさみで切り抜く様子



写真4：はさみで切り抜く様子

作品の貼り付けの活動では、カレンダーの台紙にバランスよく貼って、世界に一つだけのカレンダーを創り上げることができた。

#### 7.4 作品発表

子どもたちのお気に入りの言葉「希望」「未来」、来年の干支である「犬」、自分が好きな車や電車などの写真について発表した。学生は子どもの作品を持ったり、発表のポイントを聞いたりして、作品の発表への支援を行った。

#### 7.5 記念品贈呈

学生が手づくりした「プラ板キーホルダー」を参加者全員に贈呈した。



写真5：発表の様子1



写真6：発表の様子2

## 8. 感想

### <参加者>

- ・こういった活動で大学生と仲良くなれたので良かったと思う。(児童)
- ・カレンダーと言葉の貯金箱二つが同時にできた。いい体験になったと思う。(児童)
- ・今年もこの活動を行っていただき、感謝しています。(保護者)

### <学生>

・2年生にとって2回目のことばの貯金箱の活動なり、全体的に落ち着いて物事を進められた。子どもたちは全員が連続して参加された子で、活動もスムーズに進んだ。笑顔で子どもたちと接し、子どももまた笑顔で話してくれるので活動が一層円滑に進んだ。様々なものから着想を得られるこの活動がより多くの人に広まってほしいと思う。

### <教員>

・2014年度から七ヶ浜町で「ことばの貯金箱」の活動を開始して4年目を迎えた。今年2回目となる活動は昨年度仙台市内で実施した「世界に一つだけのカレンダーづく

り」を引き継いで行うなどこれまでの活動を十分に活かしていた点が良かったと思う。

## 9. 活動を通して学んだこと、課題

二度目の活動ということもあり、活動の準備も円滑に進んだ。しかし、一回目の反省が十分に生かしきれない部分もあり、当日の準備が不十分になってしまった点もあった。

そんな中でも活動中はみんな臨機応変に動き、子どもたちが楽しんでくれていたのでその点に関してはとても良いと思った。今回の活動で生かしきれなかった点を反省し、今後の活動に生かしていきたいと思います。

(石塚 斗夢)

ご後援いただきました七ヶ浜町教育委員会様には、この場をおかりして感謝申し上げます。

## ii. チーム防災士

### 「南三陸町 “海の大運動会 in 田ノ浦”」

TeamBousaisi 副代表 小笠原瑠亮

#### 1. 企画名・概要・趣旨

企画名：「南三陸町 “海の大運動会  
in 田ノ浦”」

概要・趣旨：NPO 法人田ノ浦ファンクラブが企画運営する地域活性イベント「海の大運動会 in 田ノ浦」に、ボランティア協力団体として滋賀県立大学ほかと協力し、イベントの準備および運営ボランティアスタッフとして活動させていただきました。東日本大震災での津波で被災した南三陸町の年に一度の一大イベントの運営を手伝うことで、少しでも地域の復興に協力できればという想いで参加しました。この活動を通し、参加する方々、特に子ども達に安全かつ最大限楽しんでもらえる運動会となり、自分達の活動を通して交流を深めコミュニケーションをとる中で、遊びの中でもいろんな場面で広く防災の必要性を伝えられ未来の防災っ子の芽を育むことに繋がり、また、現地に足を運び被災地域の今を感じることで、今後の防災啓発活動や防災教育活動に活かせると考えました。

#### 2. 活動団体名

大学指定団体「TeamBousaisi」

#### 3. 活動日時

平成 29 年 8 月 5 日（土）14：00 ～  
8 月 6 日（日）18：30

#### 4. 活動場所

南三陸町歌津地区田ノ浦漁港

#### 5. 参加者の状況

対象者：南三陸町田ノ浦地区の子ども達を含む、地域住民の方々

活動学生：6 名

担当教員：舩渡 忠男（東北福祉大学）

#### 6. タイムスケジュール

1 日目

10：50 東北福祉大学国見キャンパス集合  
11：00 東北福祉大学国見キャンパス出発  
12：00 昼食  
14：00 田ノ浦漁港到着  
14：10 会場設営・準備開始  
18：20 会場設営・準備終了  
18：30 平成の森で入浴  
19：30 夕食  
20：00 平成の森公民館到着  
21：00 就寝（寝袋持参）

2 日目

6：00 起床・朝食  
6：45 平和の森公民館出発  
7：00 田ノ浦漁港到着、イベント準備開始  
8：30 海の運動会受付開始  
9：00 海の運動会開会式  
9：15 おらほのラジオ体操

9:30 (障害物競走、海の玉入れ、海の宝探し競争、～12:15 踊り・唄、海上徒競争)  
12:15 昼食(炊きだし)、ホヤ袋つめ大会  
13:00 海の綱渡り&スカイアドベンチャー  
14:00 大抽選会  
14:30 表彰式、閉会式  
16:00 終了、会場片付け  
16:15 参加者、南三陸町関係者・運営者、ボランティアの方々とバーベキュー  
17:45 解散、現地出発  
20:45 仙台駅解散

## 7. 活動内容

### 7-1.会場設営・準備

海の運動会前日現地入りし、会場の設営・準備を行いました。特設ステージ作り、机・椅子運び、運動会各種目の準備など、明日の運動会を成功させるべくここに集まった関係者が協力し、予定通りすべての作業を完了することができました。その後、リハーサルを行い、前日準備終了。学生の宿泊場所は、田ノ浦集会所です。集会所では、他大学の学生と短い時間ではありましたが、互いの活動について言葉を交わすこともできました。明日の運動会、天候に恵まれることを願いつつ、持参した寝袋を使用し就寝しました。

### 7-2.大会運営

運動会当日は、海の運動会に相応しい快晴となりました。参加者受付の誘導から始まり各種目の誘導および競技補助など、大

会がスムーズに進行し、参加者が安全に楽しめるよう運営サポートを行いました。活動を通し、順番を待っている時間などには、参加者・観戦者問わず積極的に話し掛け、コミュニケーションを取ることを意識しました。自分たちの活動に興味を持ってもらうことで、防災に関連する話もさせていただきました。また、参加人数が足りない種目へ急遽特別参加することになり、被災地子ども支援活動の一環活動で協力ボランティアとして参加しましたが、逆に自分達が童心に帰って楽しませてもらいました。

### 7-3.会場片付け

運動会終了後は、特設ステージ、机・椅子、運動会各種目で使用したすべてのものを撤去・片付けを行いました。関係者全員、炎天下の中の活動だったため、体力の消耗もあり疲れもありましたが、無事やり遂げた達成感とこのあとの懇親会「海の幸BBQ」を楽しみに、撤収作業を終えました。

### 7-4.懇親会「海の幸BBQ」

「海の運動会」に参加した方々と田の浦の海の幸を堪能しながらの楽しい時間でした。子どもから大人まで、おいしいものを食べる瞬間の顔は本当に皆さん良い表情をしています。

また、懇親会でお聞きした話では、田ノ浦は南三陸町の北東に位置する漁業の盛んな集落で、もともとウニやアワビなどの海産物はもちろん、ホタテやホヤ、ワカメの養殖は近辺でも指折りの漁獲高を誇っていたそうです。

しかし、あの東日本大震災の影響による大津波が田ノ浦を襲いました。養殖施設も、百隻ほどもあった船も、浜にあった漁具も施設も建物も、すべて流し去ってしまいました。それでも漁師たちは、残った船に乗り再び海へと向い、海の仕事の復興に尽力されています。この日のように穏やかで静かな、そしてたくさんの海の恵を私達に与えてくれる海と自然の脅威の海、両面と向き合い海と共に生きようと決意していると苦労を微塵も感じさせず、明るく話してくださいました。

そんな、南三陸田ノ浦の町民の方々の努力があつて、こんなおいしい海の幸がいただけると思うと、おいしさも倍増しました。

## 8. 総括

今回のボランティアを行うにあたって南三陸町の方々全員が活気にあふれていたため、逆にこちらが元気をもらってしまいました。そして会場の設営、運営、片付けを通して、現代の日本に欠けている人と人とのコミュニケーションの大事さを痛感しました。また、あまりにも南三陸町の方々が震災なんてなかったのではないかと思ってしまうほど明るく接してくださるため、私たち学生の心まで明るくなってしまいました。こういうことが伝染して行って住民の心の復興につながるのではないかと思います。

今回の活動では、参加してくださった子どもから大人まで皆さんがとても明るく気さくな方ばかりで、ここが被災地だということを忘れるほどでした。しかし、自然の脅威と隣り合わせであることは、これから先も永遠に変わることはありません。震災

から6年半以上が経ち、年々記憶が薄れていく中で、これまでの教訓を活かしつつ、これからの災害に対する備え、そして、震災を知らないこれからの子ども達にも防災について伝えていくことが大切になってくると思います。

今後もTeamBousaisiでは、人と人とのつながりを大切にボランティアを続け、地域の防災訓練や防災教育活動と併行し、今回のような東日本大震災被災地の復興支援活動にも参加しながら、防災士としていろいろな場面で防災啓発活動に繋げていきたいと思いました。

## 9. 活動風景





開催日前日の会場設営・準備の様子



海上玉入れ玉拾いの様子



海上歩行・海上相撲の様子



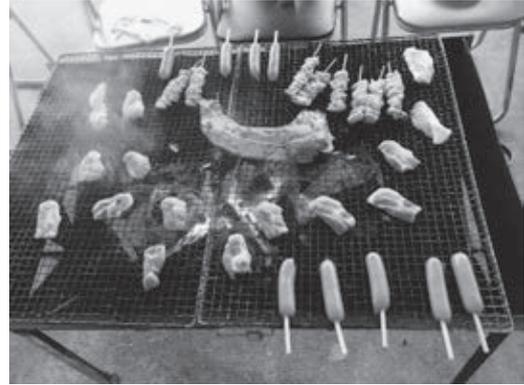
特設ステージの様子



海上宝探しの様子



海上綱渡りの様子



運動会に参加した子ども達の様子



参加学生の着ぐるみ姿



懇親会を兼ねた  
「海の幸バーベキュー」の様子

### iii.ふぁみりあ

#### 東北福祉大学学生ボランティアサークル「ふぁみりあ」名取市子ども支援プロジェクト 「なとり杜の音楽学校 2017～奏でよう!! ぼくらのハーモニー～」

報告者 及川 大貴(15MI019)

#### 1. 事業名・趣旨

事業名：「なとり杜の音楽学校 2017～奏でよう!!ぼくらのハーモニー～」

趣旨：子ども支援プロジェクト「なとり杜の音楽学校 2017～奏でよう!!ぼくらのハーモニー～」を開催した。

日頃から子ども向けイベントを開催する「ふぁみりあ」が主となり、企画及び各関係機関への渉外等に当たった。本イベントの広報は名取市教育委員会の協力を得て、名取市内の小学校全校へ呼びかけすることができた。

本イベントは「音楽」「ものづくり」をテーマに開催した。イベントでは寸劇を交え、参加者とのコミュニケーションやアイスブレイクを図った。

①「楽器づくり(担当：匠民)」ではペットボトルの「たいこマラカス」、ストローで笛を制作し、材料は家庭にある日用雑貨を利用した。

②「歌のレッスン(担当：ミュージコム)」ではアカペラのやり方や課題曲の練習を行った。

③「リズムレッスン(担当：上野学園大学)」では、①で作成した楽器を使い、課題曲のリズムのレッスンを行った。また、「上野学園大学」と「ミュージコム」の演奏会を開催し、子どもたちと一緒に「音楽」にふれあった。

#### 2. 主催団体名

東北福祉大学学生ボランティアサークル  
「ふぁみりあ」

#### 3. 共催団体名

- ・東北福祉大学アカペラサークル「ミュージコム」
- ・東北福祉大学学生サークル「匠民」
- ・上野学園大学上野学園したまち音楽団「春風」

#### 4. 開催日時

平成29年8月11日(金)  
13:00～16:00

#### 5. 開催場所

名取市下増田公民館  
(宮城県名取市美田園7丁目22-3)

#### 6. 後援先

- ・名取市教育委員会
- ・名取市社会福祉協議会
- ・学生情報センターグループ「ナジック」

#### 7. 参加者状況

参加人数：子ども22名／保護者7名  
開催者数：学生38名  
担当 鶴橋 徹、渡辺 信也、樋口智美、  
佐藤 玲於(ボランティア支援課職員)、  
岡崎 智子(上野学園大学職員)

#### 8. 開催内容

(当日のスケジュール・活動状況)

9:00	下増田公民館着
9:30	会場設営・打ち合わせ
11:30	昼食
12:20	最終確認
12:30	参加者受付開始
13:00	イベント開始
16:00	イベント終了・参加者解散 会場片付け
17:00	解散

#### 9. 活動報告

##### 9.1 会場設営の様子

本事業はふぁみりあ他、3団体と協働で実施のため、念入りにリハーサルを实

施した。



## 9.2 イベントの様子

### 1 開会式

全体が「ブレーメンの音楽隊」をパロディ化したストーリー構成になっており、各キャラクターに扮した学生スタッフが司会・進行を行った。



### 2 楽器の作成

日頃からものづくり体験を行なう「匠民」が主となり、ペットボトルを利用した「たいこマラカス」とストローを利用

した「笛」の2種類を作成した。自宅に帰ってからも家族で作成できることを目的に行なった。



未就学児から小学校高学年まで幅広い子どもたちが参加していたため、学年によっては少し難易度が高く、時間が予定よりかかってしまった。

しかし、学生スタッフ全員で各テーブルの子ども達へアドバイスするなどし、時間通りに進めることができた。



### 3 上野学園大学によるリズム教室

各種楽器のプロ養成大学の学生のため、子どもにもわかる楽器の説明や前述で作成した楽器のリズムのとり方などを演奏曲に合わせてレクチャーを行なった。



#### 5 合同演奏会

これまでのプログラム（上記 2・3・4）で作成したものを全員でお披露目をした。

最後に全員で同じ曲を演奏し、達成感から全員大きな拍手で終了した。



#### 4 歌の練習

本学アカペラサークル「ミュージコム」による歌の練習を行なった。

主に童謡やアニメソングを中心にアカペラや歌の魅力を伝えた。



#### 6 閉会式

閉会式では劇の実施やイベントの感想を子どもたちに聞くなどし、次回イベントへいかすための感想等をもらい、写真撮影を行った。子どもたちから「すごく楽しかった!」、保護者からは「大学生のイベントとしては本格的で驚いた」など。たくさんの笑顔が見ることができた。



## 9. 被災地見学

イベント前日に名取市や松島町へ被災地見学を行い、震災当日の様子やこれまでの復興の様子のお話を伺うとともに、慰霊碑や津波の恐怖、防災などについて学びを深めた。



## 10. 当プロジェクトでの課題

今回のボランティアで気付いたことや反省点、感想などの発表を行った。主な意見は下記の通り。

- ① 2 大学や各サークルと共同活動する機会が増えてきて、新たな仲間やネットワークが広まってきている。今後も連携を通して、同じ目標にむかって活動して行

きたい。

- ② 情報の共有がうまくいっていたと思う。参加者全員が「LINE グループ」に登録されていたため確認がしやすかった。しかし、早めに活動日や練習日等の日程を決めれば良かった。
- ③ 各大学とサークルの特色をいかすことができたと思う。また、他団体の取組を学び、実践することで自分のサークルにもいかすことができるため、とても勉強になった。
- ④ 被災地見学で、地震の後の津波の様子や津波に到達した高さを、映像や現場などで見て、地震の恐ろしさを改めて実感した。
- ⑤ 音楽を通して、皆が笑顔になったり勇気をもつことができる。私はこれからも人のためになる、役に立つ音楽をしていきたいと思う。

## 11. おわりに

本事業は 2 大学の「福祉・音楽」を融合させたイベントで、日頃から講義等で学んでいることや、これまでのイベントで培った知識・技術を大いに活用した事業となった。事前打ち合わせや当日リハーサルに大学やサークルの垣根を越えて、意見交換を多く行い、進行やリスクマネジメントなどについて多く話し合い、当日の臨機応変な対応により多く盛り上げることができた。

また、準備や片付・掃除、観客のお迎えや話し相手、会場内の盛り上げ方など学生が行うため、学生が一丸となってイベントを作り上げた。

東日本大震災から 6 年が経ち、「風化」も顕著に現れるとともに、支援の数や被災地を訪れる人も少なくなっている。学生が「震災復興・元気付け」をテーマに実施し、被災地の様子や今抱える現状を聞き、被災者と交流することで共感を感じあうことができた。

また、子ども支援プロジェクトのイベントでは子ども達と「音楽」を自ら作りあげることが目的に、各団体の特色をいかした楽器の作成や演奏、合唱など全員参加型に工夫したことで、全員でイベントを作り上げることができた。子どもたちへのインタビューでは「楽しかった」、「また参加し

たい」という回答が全員からあり、達成感や優越感を味わうことができ、このようなイベントを今後も継続的に続けていきたいと思った。

本事業では学生同士の「絆」を深め、先駆的かつ創造的な活動へシフトしてきている。活動以外にも普段から情報交換を行い、大学連携が深まるとともに、この輪をさらに広げ、全国各地域や学生ボランティアのネットワークとして活動が広まることになると期待している。

末筆ながら広報活動や学生支援等でご後援をいただいた「名取市教育委員会」、「学生情報センターグループ」、「名取市社会福祉協議会【なとり復興支援センターひより】」にこの場をお借りし感謝申し上げます。



## IV. その他の事業

### 七郷中学校「防災マップづくり」支援活動

#### 1. はじめに

子ども支援プロジェクト活動の一環として七郷中学校「防災マップづくり」活動の支援に取り組んで3年目となります。七郷中学校は仙台市東部の若林区荒井地区にあり、東日本大震災により大きな被害を受けた地区です。その教訓を伝えるためにこの中学校の学区内にある地下鉄東西線荒井駅に「せんだい3.11震災メモリアル館」が作られています。そして震災から7年が経過した今でも子どもたちへのさまざまな支援が必要とされているところです。

#### 2. 趣旨

七郷中学校で、総合的学習の時間を活用して、「防災マップづくり」に取り組んで6年になります。生徒たちの力を結集した防災マップは、年々その完成度が高まっています。昨年度からは事前学習として、「せんだい3.11震災メモリアル館」の訪問も加えて、カリキュラムの充実を図っています。

本学では、七郷中の先生方と相談しながら、お手伝いしています。学内の防災士研修室と連携しながら、防災・減災について学んでいる学生を中心に幅広く学生を募り、その力を生かした活動を進めてきました。

#### 3. 活動内容

##### (1) 船渡忠男先生の講演

昨年に引き続き本年も本学教授で防災士研修室室長の船渡忠男先生に「災害時の避難所設営から運営までの組織・役割～中学生ができるボランティア活動～」と題して、11月16日にお話いただきました。ご自身

の経験なども踏まえて、具体的に災害時にどう対応したらよいのか、普段からどのような準備をしておくかについて紹介していただきました。



##### (2) 生徒の「まち歩き」に学生が参加

11月27日に行われた「まち歩き」(マップを作るための地域調査)には6名の学生が参加しました。今年度のテーマは「まち歩きをしながら、地域にある施設を訪ねて、防災対策などについて情報を集める」というものです。班毎に指定された地区集会場に集合してお話をお聞きした後、地域を調べて歩きました。学生たちは七郷中の生徒たちと行動を共にしながら見守り、気付いた点を話すなどして、同時に交流を深めました。中学校の生徒さんにとっても本学学生にとっても、いろいろな刺激があったようです。当日は本学教員も参加して、学生や生徒の様子を確認し、助言指導を行っています。



#### 4、成果

生徒さんは講義を聴いたり、施設を見学したり、実際に地域の方に話を聞き、まちを歩いて地図を作成したりしながら、多くの新たな気付きがあり関心も高まったと中学校の先生からお聞きしました。まち歩き活動を通じて生徒と地域のつながりが広がり、自信につながっていくことを、3年間、この活動に関わってみて感じました。

一方学生たちも、生徒さんとのやり取りを通じて刺激を受けたようです。特に今年は七郷中学校の卒業生（現在大学1年）が参加しており、経験を伝えていくつながりを大切にしたいと実感しました。

# 協力団体・協力者一覧（敬称略、順不同）

## I. セケ浜町での学習支援活動

セケ浜町教育委員会

セケ浜町生涯学習センター      セケ浜町立亦楽小学校  
セケ浜町立汐見小学校      セケ浜町立松ヶ浜小学校

## II. 野々島プロジェクト（塩竈市での環境学習）

塩竈市教育委員会

塩竈市立第一小学校      塩竈市立第二小学校  
塩竈市立第三小学校      塩竈市立月見ヶ丘小学校  
塩竈市立杉の入小学校      塩竈市立玉川小学校

塩竈市立浦戸第二小学校

塩竈市適応指導教室    けやき教室

塩竈市産業環境部浦戸振興課

浦戸諸島開発総合センター（ブルーセンター）

塩竈市浦戸野々島のみなさん

菊地 淳    情報のあんこ

越路 明美    情報のあんこ

鈴木 一誓    情報のあんこ

津田 安廣    野々島自然塾

鈴木 正徳    野々島自然塾

長谷川雅淑    野々島自然塾

西川 信男    塩竈市浦戸野々島

遠藤 勝    塩竈市浦戸野々島

三品 茂子    野々島ラベンダー jk & b

伊藤 俊彦    野々島感動支援隊

千葉 浩介    東北重機工事株式会社

鈴木 雅博    株式会社くろしお

高橋 英夫    アクアミュージズ株式会社

秋山 治    アクアミュージズ株式会社

宮城 豊彦    浦戸フェリー（東北学院大学）

高村 元章    東北福祉大学

大山 尚人    本学卒業生

阿部 久樹    本学卒業生

石川 建太    本学卒業生

## III. 学生企画事業（学生の自主企画による活動）

### ii. チーム防災士

NPO法人田ノ浦ファンクラブ

田ノ浦契約会

NPO法人夢未来南三陸

滋賀県立大学

### iii. ふぁみりあ

名取市教育委員会

学生情報センターグループ

名取市社会福祉協議会【なとり復興支援センターひより】

岡崎 智子    上野学園大学

鶴橋 徹    東北福祉大学

渡辺 信也    東北福祉大学

樋口 智美    東北福祉大学

佐藤 玲於    東北福祉大学

宮崎 琴音    上野学園大学・短期大学部 学生

林 未奈子    上野学園大学・短期大学部 学生

清水 愛架    上野学園大学・短期大学部 学生

栗原 壮人    上野学園大学・短期大学部 学生

磯野 桃子    上野学園大学・短期大学部 学生

高村姫夏理    上野学園大学・短期大学部 学生

# 平成 29 年度参加学生一覧

## I. セブンスでの活動 (80名)

虻川 佳織	阿部 玉恵	飯野 広大	池澤 瞳子	石塚 斗夢	板倉 済侃	伊藤 仁美
稲毛 美絢	越後 菜結	及川 千鶴	太田 悠景	太田 智也	小笠原史乃	小野嘉寿真
小野 夏実	角張 紗和	北野 健人	草野 史也	熊谷 紗奈	藏本 拓真	後藤 愛
小林 晃子	齋藤なつみ	佐久間小雪	佐々木 栞	佐々木美瑞保	佐々木瑠美	佐々木康史郎
佐藤 那菜	佐藤 竜之	佐藤 正規	佐藤まりあ	佐藤 由宇	菅原 佳奈	菅原万莉子
鈴木 春花	鈴木 遥	須田 莉加	須藤 結	関 杏子	高木 玲衣	武田 優里
田代 葵	立石 千咲	田中日奈子	丹野 栞里	千葉 航平	東海林湧起	富樫 幸美
中川 映美	中野 鈴夏	中村 祐登	中村 明稔	新田結莉亜	野家菜希沙	半澤 幸征
福土 将輝	福田 理道	松田 芽生	宮田めぐみ	村山 優衣	横田 圭祐	吉田 裕亮
渡邊 里沙	渡辺 萌美	阿部 修士	伊藤 拓磨	佐藤遼太郎	佐藤 愛理	佐藤 朱音
小森谷啓輔	上村 琴江	水野 咲良	長谷川水季	渡邊 咲智	鈴木さくら	鈴木 そら
和田 宇未	鷺田みのり					

## II. 野々島プロジェクト (塩竈市での環境学習) (66名)

河村 大	高橋 初実	菅原 茜	本田 侑輝	斎藤 愛香	鈴木 菜々	遠藤 颯人
渡邊 温紀	佐々木なつみ	櫻井 結菜	吉田 靖耶	熊谷妃奈子	村上陽伊呂	柿崎 海斗
瀬野尾大伍	佐藤 未来	添田 雅子	佐藤 優樹	村上 季夏	濱 悠太郎	近 珠緒
齋藤 州	伊藤 愛菜	櫻井 美咲	氏家妃奈子	千葉 隼介	関根 夏穂	後藤 沙織
佐藤 みく	鈴木 拓海	長谷川弘哉	佐藤 結香	芳賀 俊彦	畠山 茜	佐藤 哲也
佐藤 泉妃	本多 真優	鈴木 暢崇	藤田 潤一	三澤 遼平	熊谷ほのか	伊藤 栞
熊田 観月	赤間聖玲奈	菅野 華加	鈴木 萌衣	坂内 美穂	室井真優香	伊庭ほのか
三浦 千佳	望月 麻美	佐々木美方	大槻 恭	穴戸 泰紀	伊藤 直紀	八木 裕暉
今野 秀隆	瀬島あゆみ	鈴木 里奈	高原奈津希	新田 桃子	高内 純一	石川 康平
金 信太郎	斉藤 和美	中澤 琴乃				

## III. 学生企画事業 (学生の自主企画による活動)

### i ことばの貯金箱 (15名)

和泉さくら	矢萩 華奈	佐藤 圭祐	阿部 真紘	石塚 斗夢	伊藤 仁美	猪又 春香
小野嘉寿真	川村 雄輝	草野 史也	菅原 佳奈	須藤 結	東海林湧起	富樫 幸美
渡邊 萌美						

### ii チーム防災士 (6名)

小笠原瑠亮	桂島 仁	小林 滉季	菅原 聖也	佐藤 大介	橋本 亨哉
-------	------	-------	-------	-------	-------

### iii ふぁみりあ (32名)

星 拓海	工藤 拓真	寒河江直生	安達 大紀	早坂 祐哉	澤邊 梓	飛鳥 結衣
柴田 航介	芳賀 健顕	小野 真凜	鈴木 紗英	鈴木 哲平	小沢 理夏	中川 真希
斎藤 美月	渡部 紗笑	横山 友香	鈴木聡一郎	八木優里花	阿部 僚太	板宮 諒
力丸 美里	及川 大貴	笠原 一華	佐々木真実	佐藤 知宙	田口 慧	千葉 大暉
春木 清香	馬場美沙希	大黒 康太	山口 悠貴			

### iv その他の事業

#### 七郷中学校「防災マップづくり」支援活動 (6名)

狩野 真樹	早坂 菜奈	須藤 由菜	手島 悠那	小針 有葵	熊坂 翔太
-------	-------	-------	-------	-------	-------

平成29年度 子ども支援活動決算報告

項目		平成29年度決算
<b>七ヶ浜での活動</b>		<b>754,171</b>
	備品(少額備品を含む)	0
	旅費・交通費	498,660
	謝金	0
	活動費	255,511
<b>野々島のプロジェクト</b>		<b>648,525</b>
	備品(少額備品を含む)	0
	旅費・交通費	533,220
	謝金	0
	活動費	115,305
<b>学生企画事業</b>		<b>184,100</b>
	備品(少額備品を含む)	0
	旅費・交通費	33,521
	謝金	0
	活動費	150,579
<b>共通経費 注)</b>		<b>185,534</b>
	備品(少額備品を含む)	0
	旅費・交通費	6,000
	謝金	22,274
	活動費	1,740
	印刷製本費	155,520
<b>合計</b>		<b>1,772,330</b>

旅費・交通費には、教員旅費、学生交通費、貸切バス代を含む

注)七郷中学校「防災マップづくり」支援活動については共通経費の中に含む

平成 29 年度 東北福祉大学  
子ども支援プロジェクト（被災地の子ども支援）活動報告書

編集・発行 東北福祉大学 被災地の子ども支援活動連絡会

---

〒 981-8522 宮城県仙台市青葉区国見 1 丁目 8 番 1 号

事務局 東北福祉大学 社会貢献・地域連携センター 生涯学習支援室

TEL：022-380-1067

ホームページ：http://www.tfu.ac.jp/index.html